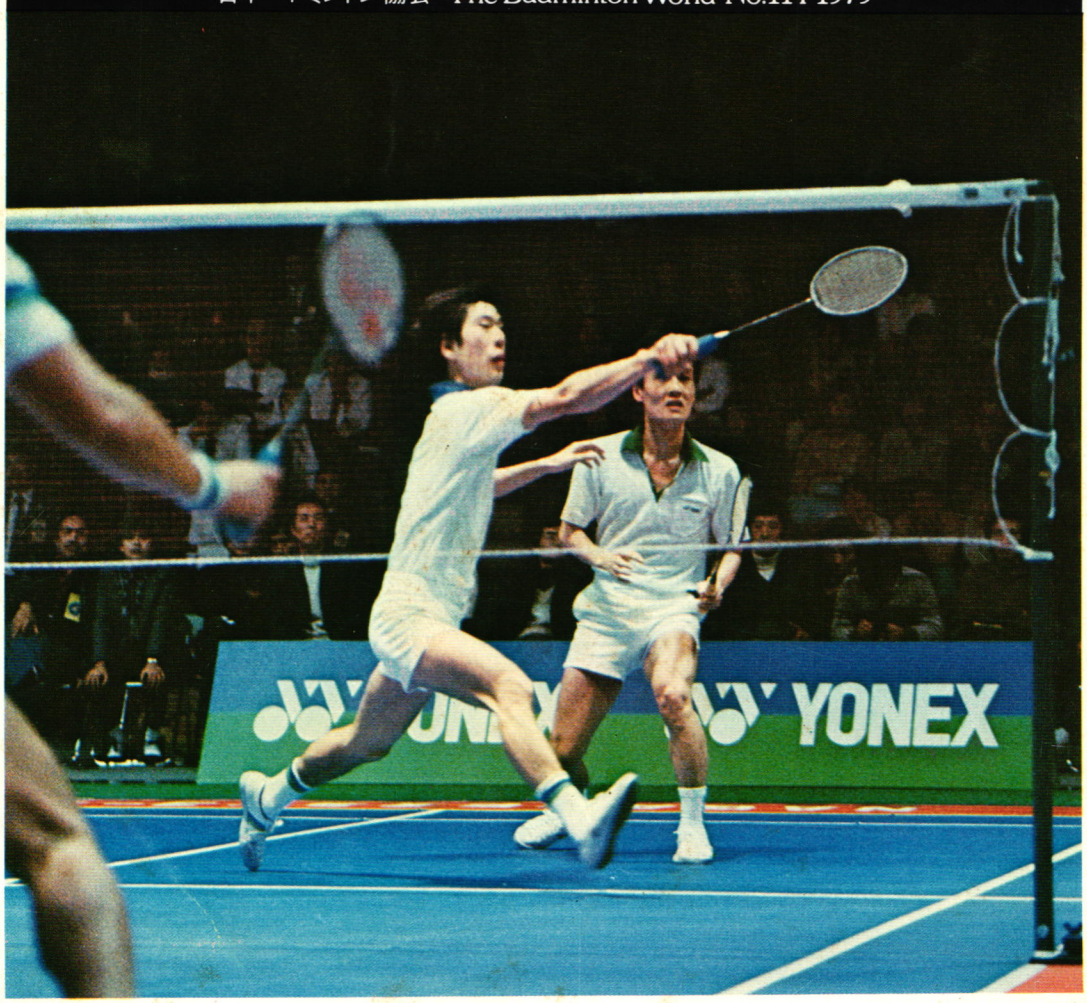
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年4月15日発行（毎月1回15日発行通巻第114号）

バドミントン4

日本バドミントン協会　The Badminton World No.114 1979



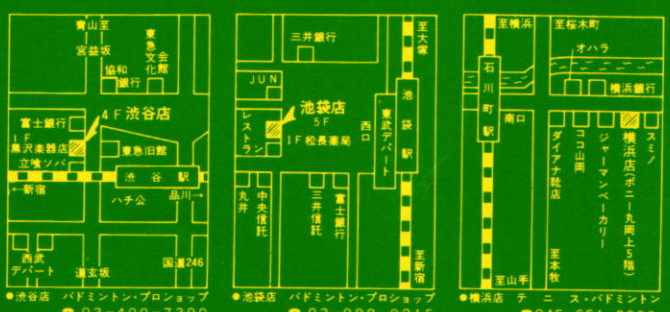
ニューフェイス
バーゲン
4/14↔22

新入生チャンス
フェア
4/14↔5/31

２大企画
同時進行

●年中無休
●営業時間
AM 9：00～PM 9：00

ラケットショップ元町



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390

●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215

●横浜店 テニス・バドミントン
☎045-651-2020

バドミントン4

❷
ＩＢＦ会長ステラン・モリーン
この素晴しい大会の継続と発展を願う

❸
舞台裏から見たワールドカップ'79
初の大会事務局を設置

❹
涙で見上げた満員の客席
大会を成功させた事務局の男たち

❺
全世界が開催に協力した
——外国選手16人の予定が26人も

❼
外国で買った航空券
——経費節減にもひと工夫

❽
大会の花、20人の微笑
——成功だったマスコットガール

❾
みんな謙虚でチャーミング
——外国選手をお世話して

❿
難産だった「統一」プログラム

⓫
〝殺人日程〟——でも楽しかった
——大会をふり返って〈L・コペン〉

⓬
読者投稿＝SILVER PRIZE〈長瀬あずさ〉
ラケットを握ったことのない私だけど……

⓭
読者投稿＝SILVER PRIZE〈高岡和美〉
ふたたび燃え上ったバドミントンへの情熱

⓰
私が見た外国選手＝オーティズ・ミチコ
タルボットは紳士、ベラワティはお洒落

㉒
われらのクラブ＝練馬区春日クラブ
大漁旗掲げて……

㉖
われらのクラブ＝安田火災海上保険
頭が痛い〝若手の流出〟

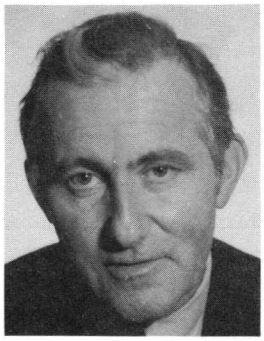
㉚
全日本女子チャンピオンズ・トーナメント
4強し烈、徳田に凱歌

㊻
ヨーロッパ情報
12針ぬうケガにも負けず優勝

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇写真撮影＝赤星三樹（アサヒペンタックスMX、K２　SMC-P-M50／1.4　SMC-P-200／2.、300／４）
山田真市

この素晴しい大会の継続と発展を願う

国際バドミントン連盟会長 ステラン・モリーン



第一回バドミントン・ワールドカップ大会に招待され、本田弘敏会長をはじめ日本バドミントン協会の皆さんとお会いした一月中旬の一週間は、私にとって、すばらしい日々でした。

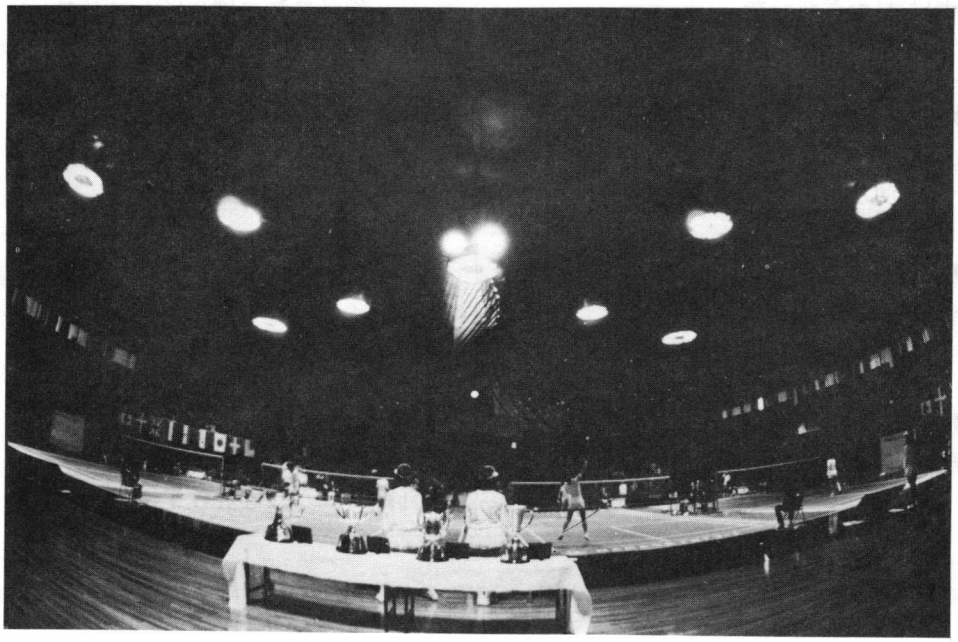
この大会は、私の長いバドミントン人生の中で体験した最もすばらしいものの一つです。このような大会が、日本で、いやアジアで行われたこと自体、むずかしい問題をかかえているIBFにとっては、きわめて意義深いことと考えます。

参加選手のレベル、数からみて、現在、世界のバドミントンが一堂に会した大会でしたし、それを運営、管理された日本バドミントン協会の皆さんに、深く敬意を表します。

来年以後も、この大会を継続し、さらに発展されるよう願ってやみません。

大会シンボルマーク

WORLD CHAMPIONS CUP
BADMINTON TOURNAMENT



第一日目はコート4面を使用した

初の大会事務局を設置

大会事務局長 小飼 栄一

「これほどすばらしく組織された大会は、全英選手権をのぞくと、他にないんじゃないですか。来年以後もぜひ続けてほしい」（来日した外国選手）

「世界には、すごいプレーヤーがいるものですね。リム・スイ・キンを見ることが出来てほんとうによかった。バドミントン競技そのものを見直しました」（観戦した愛好者）

「代々木第二体育館に、こんなに観衆が入ったのは、他のスポーツを通じても初めてのことです。バドミントンの人気に改めて驚かされた」（体育館の係員）

「こんなに多くの外人をよく集めましたね。日本協会は意外に信用あるんだな」（マスコミの人）

――第一回バドミントン・ワールドカップに寄せられた各方面から反応です。

これだけを見ても、大会は大成功だったと言えるでしょう。

ご協力頂いた協会の関係諸氏に、大会事務局長として深く感謝する次第です。

もちろん、日バ協会内部にもいろいろご批判はありました。

「組織力も十分でないのに、大きな規模でやりすぎた」「大会のふんい気が、アマチュアにしてはハデすぎる」「準備の段階で経過が役員にも十分知らされなかった」――などさまざまです。

言われてみると、もっともなご批判が多かったと思います。事務局としては反省すべき点が多々ありました。

しかし、協会始まって以来の大きなトーナメント（ト杯、ユ杯等公式戦をのぞく）を、国際的な習慣に従って短期間で開催しようとしたわけですから、多少の無理はあったでしょう。

〝無理〟の言い訳をする気はまったくありませんが、大会前から直後にかけて、それこそ寝食を忘れて働いた事務局員から、それぞれレポートをいただきました。バドミントン界の誌上をかりて特集したいと思います。これは、いわば大会の裏方さんの苦労話です。皆様のご理解と今後のご協力を頂く上で、多少ともご参考になれば事務局として、これにまさる幸せはありません。

事務局でがんばった人達

組村　明（日本協会常務理事　総務委員長――電電公社）
宮氷武司（日本協会常務理事　国際委員長――明治生命）
海保正義（日本協会広報委員――明治生命）
栗田光憲（東京都実業団理事――栗田会計事務所）
星野義昭（東京都実業団理事――電電公社）
石井三千男（千代田区協会理事――世界文化振興社）
佐藤竜典（東京都実業団理事――ヨネックススポーツ）
黒子好信（大会事務局員――東京女子体育大学）
大西優利子（大会事務局員――東京女子体育大学）
長谷川綾子（大会事務局員――東京女子体育大学）
三堀愛子（大会事務局員――東京女子体育大学）
東ヶ崎ひで子（大会事務局員――東京女子体育大学）
根本雅江（大会事務局員――明治生命）（所属等は大会時）

大会事務局の面々―深夜のため女性軍が写っていないのが残念

舞台裏から見たワールドカップ'79

舞台裏から見たワールドカップ'79

涙で見上げた満員の客席

——大会を成功させた事務局の男たち

組村　明

過去七年間国際大会の名称で親しまれて来た大会を、より大規模なものとし、ヨーロッパだけでなくアジア、アメリカまで含めた世界的な大会に——名称もワールドカップと決定されたのは10月初旬でした。

日本協会で小口理事長を委員長にして実行委員会が、小飼副理事長を事務局長に事務局が編成されたものの、どれから手を付けてよいものやら思案にくれていた事務局員の宮永、栗田、海保、佐藤君達は、

「今度はどうしても専属の事務員を雇い、どこかに部屋を借りて準備に当らないと駄目だ」と事務局長にいい、場所探しを始めました。

ところが、なかなか適当な場所がなくやっとの事で台東区の谷中に発見、短期間ではとしぶる大家と拝み倒して11月11日に入居の運びとなりました。

いよいよ、14日には長谷川さん（関東学連——東女体大）を迎えて事務局が開設されました。20日には帝国ホテルで大会発表が本田会長から行われ、この日から大西優利子さんも加わってくれました。人はこれで揃い、電話も17日には設置されていたが、湯飲みすらなくみんなで何かを持ち寄り、借り物だらけでスタートを切った。

各開催地の準備も進んでくると、まず電話がパンクし話し中ばかりとなりついにキャッチホンを設置。ところがこれが案外取扱いがむずかしく、大会が終る頃になっても慣れない人もいたようです。

女性軍は夕方六時まで、その後は入り替りに宮永、海保、栗田、石井、佐藤の諸君が集って来て、だいたい平均すると十一時頃まであでもないこうでもないの毎日が続いていましたが能率が悪い事もあったのか、12月に入ると昼間も人手不足で長谷川さんの同級生の三堀さん、東ヶ崎さんも加わり、さらに男性軍には星野君も参加しました。

外国選手の来日日程もほぼ決まり、各地方大会の組合せの割り付け、入場券発売と問合せが殺到してくると、いつとはなしに女性軍の帰りがだんだん遅くなり九時、十時になってきた。

この頃になると、男性軍も含めて皆気が立っているせいか、知らない人が見聞きしたらびっくりするほどのやりとりが飛び交う中で年の瀬となりました。

12月30日から1月4日まではとにかく正月休みにすること決定して、12月29日に事務員打合せ会議を行いました。そこで今後のスケジュールをチェックした際に、皆んな追い詰められた心境の中で、(1)大会旗をつくること（これは読売新聞の小林記者発案）、(2)東京大会用には得点板をつくること（宮永君の発案で後で栗田君が下に広告を入れることを思いついた）、(3)組合せ抽せんは大会前日に公開で行い、試合のタイムテーブル表と前日の結果を毎日印刷し翌日の会場で配ること（最終的には一〇〇円で売る事に決定）等をいとも簡単に決めてしまいました。

ところが、このために年が明けてからの大作業が待っていたのです。結果としては、なんとか全部出来上り、どれひとつとっても東京大会には欠かせないものとして役割をはたしたわけですが、特にこの作業にご協力いただいた東京都協会の関さん、坂爪さん、鈴木（利）さん、細江さん、下川さん、伊藤さん、小林さん、荻田さんには本当に感謝しております。

それと指がしばらくおかしくなるくらい鋏で得点板の文字を切り抜いた大西、長谷川、三堀東ヶ崎、根本（一月から加わった）の各嬢、なかでも徹夜で大会旗の原画を書いた関さん（東京都協会事務局長）、それに2日間徹夜で色を塗った佐藤君には頭が下がります。とにかく皆んな夢中でした。

それと、どうしても忘れてはならない存在は石井君で、彼は黙々と資金繰りと領収証、伝票の整理に明け暮れて、一番いやな大変な仕事を相当してくれました。

外国選手招待の話は別の稿で宮永国際委員長が書かれるでしょうが、この間の彼の苦労は数行の文章ではとても書きつくせないでしょう。

1月11日、ついに外国選手団が成田に到着、いよいよ戦闘状態に突入。

13日のデンマーク勢を最後に全員予定通り無事到着。各地の大会がスタートすると最後の打合せのための連絡、新聞社、テレビ局からの問合せ、宿舎、輸送等々食事も満足にとれない毎日となってきました。

そして、16日には各地の大会も無事に終わりメインイベントである東京大会を迎えて事務局もラストスパートに入りました。

17日からは全員宿舎であるホテルグランドパレスに荷物ごと移転、それぞれが受け持ちの仕事のチェックに精一杯の努力を

してくれました。

18日午後の組合せ抽せん、続いて記者発表、そしてレセプションと息をつく間もなく進行して行き、大会初日を迎えることとなり全員に緊張がみなぎってきたようです。

それぞれが配置につき四面のコートに選手が散らばった時にはおそらく事務局員はちょっとなりともほっとした事でしょう。

でも、今度は観客席が心配で栗田君、石井君あたりは気が気でないし、マスコットガール担当の星野君も心配でじっとしていられないという感じでした。

かくいう私も、宮永君とこの調子でははたしてどうなるのやら、ぱらぱらと散らばっている観客席を見ながら出るのはため息ばかりでした。

でも、最終日21日になって皆んなが待ちに待っていた状態がやってきました。鈴なりになった観客席を見上げた時、今までの苦労も吹っ飛んでしまう気分でした。全試合が無事に終ったとき、事務局で頑張った皆んなの顔が心なしか気が抜けたような——どこかそれでいて満足し切って今はもう何もやりたくないという表情でした。

事務局は、大会が終ってIBFのモリーン会長以下外国選手全員が帰国してからが実は大変で、女性は全員一月末まで、男性軍はまだまだ残務整理が続いています。でも、一段落つき心ははやくも来年の第二回大会へと動きはじめているのです。

最後になりましたが、本当に陰でこの大会を支えてくださった読売新聞の小林さん、グランドパレスの佐藤さん、加納さん、福一運送の福本さん、長瀬ゴムの佐伯さん、電通、ヨネックス、サントリー、読売新聞、報知新聞、日本テレビ、全日空の皆様方、そして大阪、岐阜からかけつけて手伝っていただいた、山本（サントリー）、天野（東海女短大）の両氏にもこの誌面を借りて心からお礼を申しあげます。

本当に皆さんありがとう！

来年もよろしく。

舞台裏から見たワールドカップ'79

全世界が開催に協力した

——外国選手16人の予定が26人も

宮永武司

「日本でも早く全英大会の様な規模の大会を開催したい」という要望に応えるためワールドカップ開催構想をバドミントン関係者達と話し合い始めてからもう二年ほどになります。でも、なかなか実現出来ませんでした。

まず、世界中が日本のこの大会に協力してくれなければ無理なのです。というのも国際オープントーナメントはお互いの国同士、スケジュールの調整をしながら、なんと五年先までの日程がかっちりと組まれているからです。いつも一月の二週はスウェーデンオープン、三週はスコットランドオープンがあります。どこの国も毎年決った月の決った週に大会を行う事になっていて、これを変えるのは大変。

五月のニュージーランドでのユーバー杯大会期間中に開かれたIBF理事会で、「日本は来年から必ず毎年この時期に大会を開催したいので何とか考えてほしい」旨提案したところ、モリーン会長（スウェーデン）、リーディー副会長（スコットランド）のお二人が快く賛成側にまわってくださり、やっとの事で意見がまとまりました。

この時点で半分は大会開催の目途がついたわけです。こうなればあとは、七年間来日してくれているヨーロッパ各国へのお願いをスタートにインドネシア、インド、アメリカ、カナダ……と一つずつ説き伏せることに全力を傾けるしかありません。

問題はバドミントン王国インドネシアです。これがうまく行けばあとは大丈夫と張り切ったものの、何せユーバー杯決勝で日本がやっつけたばかりで、相手にもそんな話に乗っている余裕はない——。でも、スディルマン会長、スハルソIBF理事が基本的には協力するという事だけの返事をもらいました。（結局最終的に決ったのは十一月末になったのです。）

九月の中旬には正式な招待状を送る準備をし、招待選手のリストアップを行い、発送。十月にロンドンで開催されたIBF理事会の折、その場でデルフス、コペン、スコブガード、ギルクス、ペリー、スタット（十月中旬に結婚して現スコブガード夫人）の各選手が決定。

帰国後、事務局の開設準備に追われていたところ、イギリスからどうしてもトマス杯に備えて男子選手を三人追加してほしい申し出があり、旅費イギリス負担で了承。あと残ったのは、かんじんのインドネシアとカナダ、アメリカです。期日が迫ってついに電話での督促が必要になってきました。

ひと口に電話といってもご存

舞台裏から見たワールドカップ'79

知のように時差はあるし、相手がいるかどうか等々、結構手間取るもので、事務局で深夜二時三時まで頑張っていないとならないハメとなった。

やっとの事でつかまえたインドネシアのスハルソ氏からは、当初の案にプラスして「スミラットと女子選手を四人追加、チュンチュン、ワジュディの代わりにクリスチャン、チャンドラ、リム・スイ・キンは東京大会のみでどうだ」という考えてもいなかった要求。

多くの選手が参加する事は喜ばしいけれども、予算の関係もあり、行き詰まってしまった。何回かの事務局での打合せ、ジャカルタとのやりとりの後、航空券代として一人12万円でインドネシアで購入してもらうこと（普通に買うと、一人28万円）、リム・スイ・キン選手も全日程参加することを条件に交渉成立。

これで、もう大丈夫——と思ったら今度はインドからの電報でスケジュールの都合でプラカシュ選手が駄目との事。いったいいつになったら終わるのか。いやになってしまう！　幸いにもプラカシュ選手は来日の運びとはなりましたが、彼に航空券を送ったのは何と出発の二日前でした。

千駄木の事務局に本人から心配のあまり電話がかかって来たほどでした。

「いつでも行けるように準備をして待っているのですが？」、「今朝切符を送ったから安心してください」という調子でした。

でも、最後の最後まで心配が——実はまだあるのです。結局、成田空港でみんなの顔を見つけてほっとし、そして全員が無事帰国するのを見届けて本当におしまいとなりました。

大会も無事終了してみると、選手ひとりひとりの顔がなつかしく思い出される今日この頃ですが、選手にまじって、もう一人の男の顔が浮びます——ロンドンにいる元常務理事の山本洋彦君、彼がいなかったらヨーロッパの選手は、これほどスムーズには来日出来なかったでしょう。

どうもありがとう、山本君。お世話になりました。

会場センターポールにひるがえった〝手づくり大会旗〟

大会事務局、カベのスローガンに注目（左上）

大奮闘してくれた女性軍、記者会見場で（左下）

外国で買った航空券

——経費節減にもひと工夫

栗田光憲

「オイ、えらいものを引きうけちゃったな」「親友とはいえお前を引っぱり込んじゃって、申しわけない。奥さんによろしく言っておいてくれ」

千駄木近くにある落語家の店円（まどか）、（橘ノ円師匠経営）のカウンターに座って、千代田区バドミントン協会の石井三千男君とこんな話をする日が何日か続きました。事務局の仕事が↘終った帰り途。十二月に入ると、それすら出来ない忙しい毎日がやってきたのです。

私が事務局の会計をやるように言われたのは、前の年の国際大会で会計を経験したためでしょう。予算を立てている段階の十一月頃までは、一人で何とかやれたのですが、選手の輸送、宿泊等の問題も引きうけるようになって、とても一人では足りなくなり、経理に明るい石井君に事務局に入ってもらうことになりました。

彼も、最初は軽い気持だったでしょう。しかし、何しろバドミントン協会初って以来、ともいわれる大仕事。大会の準備がこんなに大変なものだとは夢にも思っていなかったのです。

十一月六日から二月六日までの間に、六十三日間、夜おそく↖まで事務局で仕事をしました。予算は立てたものの、収入面が次々に減っていき、支出面では予想もしなかったものがどんどん出てゆく、スポンサー関係の問題で赤字予算になり、地方と日バ協会の板バサミの中で、何度か「これでは大会は開けない」と思ったことがありました。

本大会の第一日、入場者八百人。二日目は千八百人。どうなることかと思った最終日には、体育館始まって以来の三千六百人が入場。あわてて国立競技場にお願いして前日の残り入場券を当日用にふりかえたり、うれしい悲鳴をあげました。

最もお金のかかる外人選手の飛行機代については、円高の関係もあって、外国で購入する方が安く上ります。この点についても、ヨーロッパ各地にいる日本人バドミントン協会関係者のご協力を頂きました。

最終的には目標どおりの売上げで、どうにか黒字になったようです。皆さんのおかげだと、感謝している次第です。

サイン攻めにあうクリスチャン

大会の花、20人の微笑

――成功だったマスコットガール

海保正義

年末のあわただしい事務局にとって、たった一つの楽しみ？は、仕事のあい間に美人の写真を見ることだった。

「仕事中に不謹慎だ！」ですって？、いえいえ、これも仕事だったんです。

「大会のムードを盛りあげ、さわやかで明るいふんい気をつくろう」という目的で、マスコットガールの採用をきめたのが十二月中旬の事務局連絡会議。

電通の島元氏に相談をしたところ「そりゃあいいアイデアだ」ということになって、アマチュア・スポーツ初の試みが実現するはこびになった。日本テレビのご協力で十二月二十三日朝の番組で募集のお知らせが電波にのった。

テレビでのPRが終って10秒たつかたたないうちだった。事務局の電話が鳴って「わたしマスコットガールやりたいんですが……」。あとはもう電話と手紙（申し込み書）の〝波〟が事務局におしよせたという感じだった。

公募しめ切りの一月六日までに二百五十人の応募があり、一月十日のオーディション（ホテル・グランドパレス）には事務局の書類審査を通った七十人しか呼べないという実情だった。

毎晩のように、美人の写真をながめて「この子はいい」「この人は条件に合わないんじゃないか」と品定め。苦しかった事務局の仕事の中で、たった一つの息き抜き？がマスコットガールだったことが、これでおわかり頂けたでしょう。

二十人のマスコットが誕生しました。さて、どんなコスチュームをつくり、どうやって教育するか――。衣装の方はスポンサーのヨネックスに協力願い、あのようなチャーミングな姿が出来上ったのだが、問題はバドミントンを知らない彼女たちに、どうやって大会運営の手伝いをさせるかということでした。

彼女たちの仕事は、大会当日、会場でプログラムを販売したり、得点板を表示することなどが主なものですが、こんな簡単なことでも、短期間に二十人の若いお嬢さんを揃って一応のレベルに教育するのは大変なことでした。教育係の星野義昭君が「役得？とんでもない。ボクが一番苦労したんだ」と言うのもよくわかります。

彼女たちの〝効果〟はもちろん〝無形〟のもので、なかなか数字で表わせるものではないでしょう。しかし、彼女たちが本大会の会場で売ったのも含め、プログラムの売上げがバドミントン史上最高の百五十万円に達した、ということだけをみても、マスコットガールの美しい笑顔が、大会を成功させる大きな要因となっていたことは見逃がせないでしょう。

みんな謙虚でチャーミング

——外国選手をお世話して

大西優利子

今回初めてバドミントン選手達に接してみて、まず感じた事は、彼らの選手らしくない謙虚な態度でした。やはりアマチュアスポーツであるからかも知れませんが、スポーツというものはすべて謙虚さの上に力をつけていくものなのではないでしょうか？

このごろ野球等で選手のフテブテしさなど騒がれている中でなにか、バドミントン選手達にはすがすがしさを感じさせられてああ良かったと思う次第です。外人選手のお世話をしてみていろんな事がありました。試合の時は厳しい選手達ですが、試合以外の彼らは皆、楽しい人達です。

あの有名なインドネシアのリム・スイ・キンやチャンドラ選手達によるピンクレディーのUFO踊り。岸体育館での練習後にあったハプニングで彼らは長崎大会で習ったといって私にも教えてくれました。そのチャンドラ選手は朝になるとホテルのロビーをインドネシアのなべを持ってうろうろするのです。中味はなんとただのたきたてのホッカホカのご飯だけなのです。それを大切そうにかかえて自室に戻ります。どうやって食べるのか聞いてみましたら……中にスパイスをボンボン入れてまぜて食べるとか。お国の違いというものですね。

帰国の便を変更するといいだしたインドのプラカシュ選手。航空券のチェックを「私が調べます」といったところ、なんと彼は航空会社への電話を自分でするというのです。そのうえ彼は後でちゃんと私に紙に書いて変更便を知らせてくれたのです。……（私の仕事をとらないで——！）

毎日、ホテルから練習場、競技場までバスで行ったり来たりします。練習のある日、バスの中で私が今、流行の雑誌（アンアン）を読んでいるとノラ・ペリーとアン・スコブガード選手が本に興味を示して、おもしろそうに見ていました。

そこでアンがこのミンクのコートがほしいというのです。ノラと私と三人で値段はいくらぐらい一〇〇万円ぐらい？などと話していると後席に座っていたハンセン選手がアンに「彼に買ってもらえば」といったところミスター・スコブガードがあわててだめだめだといい、食べていけなくなるぞーというのです。

アン曰く「買えるわけないのにねえー」でした。このユーモアにプロ選手ではなくアマチュア選手達の生活を感じ取る事が出来ました。

このような楽しい話がたくさん私の心の中にあります。忙しすぎて皆さんにご迷惑をかけたりしましたが、自分では仕事をしてこんなに一生懸命やった事なかったように思います。今となっては何もかも楽しい思い出です。

バドミントンに興味のなかった私ですが、実は先週駒沢公園へ行ってバドミントンを内緒でやってみました。むずかしいものですね。なんと羽根が飛ばない事。来年の大会をお手伝い出来るまでには少し上手になっておきましょう。

プレーにはあくまでも厳しかったが、ふだんは笑みをたやさなかった

難産だった「統一」プログラム

佐藤竜典

「どうしてそんなに青い顔をしているの」とまわりの人によく言われた。数少ないスタッフで限られた時間をフルに使い、いろいろな問題をかかえながら動いてきた大会事務局。その中で私の仕事はポスター、入場券、プログラムの製作だった。

ポスターと入場券は、多少の問題もあったが、まあ何とか出来た。問題はプログラム。これ↘

もちろん、初めてのやり方であり、原稿がうまくまとまらずしかも悪いことに時期が年末とあって、印刷会社からは矢のようなさいそく、各開催地からは「まだ出来ないのか」とお叱りを受けるありさまだった。

やっと出来たと思ったら、こんどは運送に泣かされた。紙というものは、まとまると意外に重いものだ。「こんなに重いものを運ぶ約束じゃなかった」と運搬業者。地方には年内に出さなければ全くお手上げの状態であったため、再三業者に頭を下げて、やっと荷受けしてもらったのが実情です。

大会が始まり、各開催地から完成されたプログラムが届けられ、地方色豊かな内容のページをめくって見た時、おわびと感謝と安心感が入りまじった複雑な心境でした。

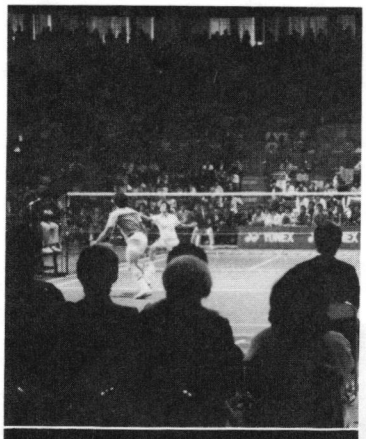
こんな気持でプログラムを手にした人間なんて、過去にいたでしょうか。

今では一つ一つが楽しい思い出です。

にはずいぶん振りまわされた。

今回は全開催地とも統一したイメージで大会を盛り上げるものにしたいとの考えで出発し、まず従来のB5判から、ひとまわり大きいA4判のサイズを採用、基本的な部分は事務局側で準備・印刷し各開催地に発送する。それを受けて開催地側が地元の記事、広告を加え製本し完成させるという方法である。↖

立見席までいっぱいの最終日



リム・スイ・キンの活躍に来日した先輩ハルトノも満足そう

〝殺人日程〟——でも楽しかった

——大会をふり返って

リーン・コペン（デンマーク）

コペンハーゲンから十七時間、やっと成田空港に着きました。やれやれと思ったら、いきなりマイクロバスに乗せられて、羽田空港に行くというのです。一時間半かかるそうです。コペンハーゲンからの飛行機が遅れたため、成田で名古屋に行く国内便に間に合わなかったのです。

急いでいたため、成田での食事もトイレもダメ。マイクロバスの車内で日本国内でのスケジュールを知らされましたが疲れていたため、ウワの空だったのでしょう。もし、頭がクリアーだったら、そのハードスケジュールに目を丸くしていたに違いありません。

羽田に着いたのが夜の八時少し前、また飛行機にゆられて一時間、そしてバスで四十分。名古屋のホテルに着いたのが十時少し前、部屋割りが出来て落ち着いたら、もう十二時でした。

なのに、翌日の十時にはバスで約一時間かかる試合場に出発です。スコブガード夫妻が寝坊して、皆に迷惑をかけたのを、責めるわけにはいかないでしょう。

午後一時に始まった刈谷の試合は、千葉さん、近藤さんが相手でしたが二人とも調子が良さそうでかなりきつかった。それでも何とか勝てたのですが、ホッとしていると、夕方から刈谷市のレセプション。エチケットですから出ないわけにはいきません。

八時間の時差によるねむい目で、やっと名古屋駅についたら今度は東京行きの新幹線まで一時間も待つというのです。深夜東京のホテル（グランドパレス）に着いた時は、もうくたくたでした。

それなのに、選手世話係の人から聞かされた言葉は「あすの朝は六時に起きて下さい」というザンコクな内容。こんなハードな日程で歩かされたことは、私の記憶にもありません。

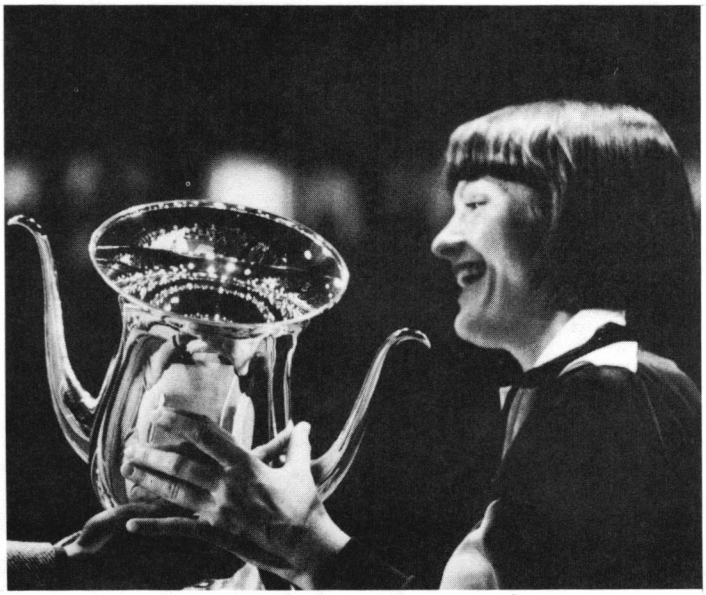
翌日、朝食もとらずに全日空で飛んで、仙台に着いたのが八時半、宿舎について部屋でひと休み出来るかと思ったのですが「正午までは入れない」と断わられ、やむなくコーヒーハウスで時間つぶし。午後からの試合で、近藤さん、徳田さんに勝った時は、夜の仙台を楽しむ意欲さえなくなっていました。

あとはもう書かなくてもいいでしょう。桐生、そして本大会と息つくひまもなく試合が続き、本大会の女子シングルスで優勝した次の日（大会最終日）にもミックスのエキシビションまでやらされて、大会終了の翌朝にはもう日本を立つことになったのです。

こんなハードな日程にふりまわされたのに、日本の十日間が楽しかったのは、今考えると不思議でなりません。事実上のハズ（ご主人）であるハンス（レオプケ氏）と一緒だったこと、シングルスで八戦全勝だったことなど私をご気嫌にさせるいろんな要素があったことはたしかです。でも、本当は日本協会の皆さんが、この大会を成功させようと、意欲的に働いている姿に接したからに違いありません。

裏方さんの苦労にくらべたら試合をやるだけのプレーヤーの疲労など、大したことではないのです。

いい試合が出来て本当によかった。日本の皆さん、どうもありがとう。（談）



ハードスケジュールにも耐えて、ワールドカップを手にニッコリ

舞台裏から見たワールドカップ'79

読者投稿・ワールドカップ'79観戦記　SILVER PRIZE

ラケットを握ったことのない私だけど……

千葉市千草台　長瀬　あずさ

私はバドミントンとは何ら関係はない。高校で部に入っているわけではないし、中学の時やっていたというわけでもない。もちろんラケットさえも握ったことがないというわけではない。たいていの人と同じくらい——家の近くで弟としたり、小、中学校では休み時間などに友達としたり。

こんな私がなぜバドミントン・ワールドカップを観に行ったか。それは私のある友人の影響である。その友人はバドミントンが大好きだ。しかしわけあって学校の部でやることができず、かといってスポーツクラブなどに入る機会にも恵まれず、今日まですごしてきた。でも彼女が私にバドミントンの事を語る時のうれしそうで、それでいてどこか真剣な目を見ると、彼女にバドミントンをやらせてあげたいという気になる。

そんなわけで彼女が私にワールドカップを観に行かないかときいた時、私が首を横に振るわけがなかった。

私も、もともとスポーツが好きだ。それなのに、なんの運動部にも入っていない。そんな自分に、常々矛盾を感じていた。そして部活動に汗を流し、泣き、笑い、励まし合っている友達を見るたびにうらやましく思っていた。

『私も何かスポーツがやりたい』。こんな私だから、ワールドカップを観ながら目の前で試合している各国の選手と、運動に汗流している自分の理想をだぶらせてみていたのかもしれない。

私がスポーツに求めるものは、人とのふれ合いや和という精神的なものである。だから大きな優勝カップを手に持ち、頭上にかかげている選手をうらやましいとは思わない。それよりもむしろ、試合前の練習の時、試合では見られない笑顔をみせながら、味方と真剣に練習する姿（これが印象的だったのは、インドネシアのイー・スミラット選手）。

それから、ダブルスの試合中、味方の選手に、何か耳うちする姿。お互いに声をかけ合いながらプレーする姿。優勝カップ授与の時、言葉の通じない各国の優勝者が何か声をかけ合いながら拍手を送り合う。

試合終了後の、ダブルスならまず味方と、そして相手との握手。そしてコーチらしい人と抱き合って勝ったことを喜び合う。そんなささいなことにうらやましさを感じる。私は優勝カップがほしいわけではない。私がほしいのはスポーツを通じての友人——それによって得られる精神的な喜び（時には悲しみ）や、支えである。試合を見終わって帰る途中「私はダブルスの方がシングルスより好きだな」とつぶやいた私に、彼女は「そう？　私はやっぱりシングルスの方がいいな」と答えた。

そこが、実際にプレーすることを実際問題として受けとめている彼女と、ただ試合終了後の選手同士の握手に感激している私との違いかもしれない。

シングルスの方がいいと答えた彼女に私は、彼女が自分の好きなバドミントンをプレーすることができるようになることを、心から願った。

私はこれからも、いろいろなスポーツを見て、選手同士が抱き合って勝利を喜び合い、敗戦をくやしがる姿に、心から拍手を送ろうと思う。たとえ私自身がスポーツをやることができなくても。

読者投稿・ワールドカップ'79観戦記

SILVER PRIZE

ふたたび燃え上ったバドミントンへの情熱

横浜市旭区　高岡　和美

私がバドミントンと出合ったのは、中学一年の時。初め入部しようと思っていたクラブを突如変更した。区の第一支部に属するわがクラブは常に上位に位置していた。そのバドミントンにじきに夢中になり、ひたむきな情熱を傾け、私の青春はバドミントンだと決めつけていた。しかし二年間でやむを得ず、断つ事を決心したにはそれなりの理由があったからだった。けれどもそれからやがて二年、今なお完全に消え切らなかった私のバドミントンへの情熱。そしてその情熱をかりたたせる好試合の連続、それがワールドカップ大会だった。

〝ラブオール〟から〝プレー！〟のコールまでの一瞬の張りつめた緊張感がたまらなく好き。静止していれば優雅なシャトルも、世界一の王者インドネシアの王子様リム・スイ・キンなどにかかっては、その舞うように美しい姿も獲物に向ってまっしぐらのライオンのごとく化してしまう。そして腹の底に快く響くストロークの音。またある時は火を吹くような強烈なスマッシュのシャトルの動き。一つ一つにわたしは、自分の体に流れる血が速度を増して行くのを感じていた。そして自分があのひのき舞台でプレーしているような錯覚をおぼえたのだった。

開幕日横浜と神戸で熱戦の火ぶたが落とされた。雨模様の一月十三日㈯横浜文化体育館への道のりは女学生ばかり。こんなにもたくさんの人達を夢中にさせるバドミントンの魅力とは？　一度ラケットを握り、シャトルを打つ事をおぼえたらまず抜け出せない魔力の様なものを持つ。コートに入れば、しじゅうランニングしているのと同じ。決して楽なものではない。右へ左へ、そして前へ後へ。軽快なフットワークこそバドミントンの命。

すっかり脱帽させられてしまったのが、あのトッププレーヤー達の足腰のバネを十分に生かした軽快な動き。リム・スイ・キンにしろ、クリスチャン・チャンドラ組にしろ、そして女子でも植野・米倉組にしろ、コペンにしろ優勝して当然といった肉体、精神を持ち備えていた。ハッと息をのむ瞬間、ヘアピンのネットを越える時。それはまさに技の競い合いのさまだった。ラケットの面上をすべるようにはじけるシャトル、それはまさに〝一つの技〟という結果に過ぎない。でもその一つの技を生み出すまでには精神的肉体的に、鍛練に鍛練を重ねなければならないのだ。脚力の充実、下半身の安定そしてスナップの使い方、すべてに世界のトップを見たのである、今、ここで。

予選であったにもかかわらず、体育館の熱気は大変なものだった。一球一打にため息、歓声、拍手あり。多くの人々がゲーム展開をくい入るような眼で見ている。自分がひいきとしない選手でも見事なプレーとその根性には、スポーツマンとして暖かい拍手を送りたい。でもすばらしいラリー後、われに返った時にたとえどちらがしくじったにせよ、何ともいえない想いが胸いっぱいに広がり、それがそのまま拍手となって知らず知らずのうちに出ているのだ。そんなスポーツマンシップに染まった自分がすごくうれしかった。

結果はどうであれ、世界のトッププレーヤー達の一つ一つの最高技術に胸をときめかせて凝視し、でもなおかつ心の内では日本選手の優勝を、はれがましい活躍をと望んでいるのである。この日一日ですっかり魅了させら

れてしまった。

東京大会の最終日、代々木第二体育館は文字どおり満員だった。日本の女子ダブルスが唯一の優勝。

リム・スイ・キンとスミラットとの男子シングルス決勝を残すだけとなり、その間に私達はそこにあのハルトノの姿を認めた。テレビのゲスト出演とも知らず、彼の姿を穴のあくほど見つめていたのを思い出す。プレーを見る事ができなかったのは残念だが、彼の微笑には全英選手権への絶対の自信と人なつこさが満ちあふれていた。あの微笑、きっといつまでも忘れないだろう。

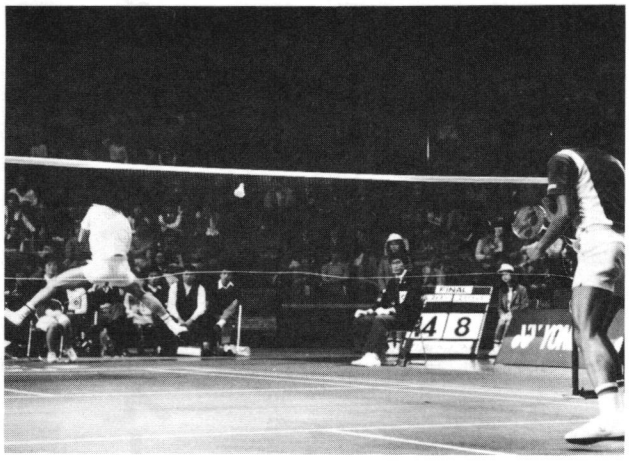
やがて男子シングルスの決勝が始まった。すさまじいほどのスマッシュに無駄のないレシーブ、どれをとってもすべてエース。双方ともよく知りつくした上での決勝戦。体いっぱいにはってぶつかってゆく姿からは自分の持ち得る力を、十二分に発揮しそれを相手にぶつけることを見いだした。

やがて戦いはおわった。ネット下で握手を交わす二人はもうもとの二人にもどっていた。今はもう再び誰も戦う事のないコートが寂しそうに横たわっている。そして短かったこの大会を惜しむようだった。その上で最後のチャンピオンとなったリム・スイ・キンがマスコットガールに囲まれていた。片手には優勝カップを持って。この大会の最後に彼の微笑は印象的だった。その微笑はハルトノのそれとまさに同じものだった。

彼の姿がフロアから消えるまでわたしの眼は釘づけだった。彼のプレーにすっかり魅了させられた私の胸の奥で、何かがしっかり堅まったようだった。

やがて照明がおとされ〝フロアからあがって！〟という声が耳の奥できこえた。

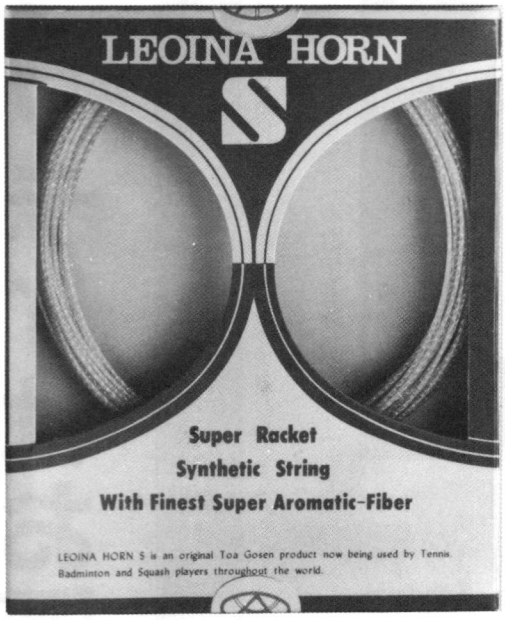
リム・スイ・キンの驚異的レシーブ



ルディ・ハルトノもガッツ小島と並んで観戦

秩父宮妃殿下もリム・スイ・キンを祝福

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S

グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66

レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66

トーア ストリングス
TOA-STRINGS SSW

トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番

私が見た外国選手

タルボットは紳士 ベラワティはお洒落…

横浜大会通訳／オーティズ・ミチコさん／に直撃インタビュー

第1回ワールド・チャンピオンズ・カップは、東京大会をはじめ各地で記録的な観客を動員して、大成功を収め無事閉幕しましたが、コート上で脚光を浴びた選手の皆さんもさることながら、舞台裏で東奔西走（とうほんせいそう）された裏方さんの活躍も見逃がすことはできません。

オーティズ・ミチコさんもその一人。

アメリカ人と結婚され、カルフォルニア生活10年間の経験と語学力を買われて、今大会・横浜大会の通訳を依頼された。日本名を沢美知子さんというれっきとした大和撫子（やまとなでしこ）。

ミチコさんの英語歴を少しご紹介しますと——10年間の渡米生活では、小学校のティーチャーズ・エイド、つまり教師助手の仕事に5年携（たずさわ）っておられたほか、現在でも家庭教師、時にはサーフィンやスケートボードの団体から、来日選手の通訳を頼まれるなど、今や英語の方が日本語よりもスムースというほど。

このミチコさん、1月13日は朝から、横浜文化体育館に詰め掛け、選手の到着を待ちながら事前の打ち合わせをすませ、正午に選手が到着すると、早速サンドイッチに飲み物といった軽食の世話に走り、右往左往したということです。

「外人の選手は、刺激物を摂らないのか、コーヒー、コーラを注文される方はいませんでした。もっぱらジュースか透明なソーダ水でした。」

ついでに夕食会での献立を聞いてみますと、

「夜は、タルボットとクラークソンがピザ、プラカシュが宗教（回教）の関係からチキンピラフ、インドネシアの選手は全員ステーキでした。それと、どの選手も喫煙はしないし、ビールさえ手をつけませんでした。ただタルボットが、日本式ゴリ押し乾杯を無理強（じ）いさせられて一杯だけ苦笑しながらお飲みになりましたけど。それと印象に残っているのは、クリスチャンが日本のミカンを気に入って、とうとうお土産にまで持って帰りました。」

ミチコさんは、女子担当の通訳だったため、男子選手と話す機会は少なかったそうですが、それでもタルボットについては、

「小さな子供が2人いるという共通の話題があったため、ちょっと話しましたが優しい人ですね。」

と、イギリス紳士を評し、プラカシュについては、

「写真とビデオテープを盛んに欲しがって催促するんです。インドでは、まだ写真技術が発達していないということなのかしら。それと、若いせいなのかしら、勝負師的なのかしら、我の強そうなところが見られましたね。」

と、さすがに女性だけに観察が厳しい。

リム・スイ・キンとは、サイン攻めに合っていたため、残念ながら話すチャンスに恵まれなかったそうですが、寒い（当日小雪がちらついていた）せいでよく切れるガットを修理する人に対し、インドネシアチームのマネジャーの注文の厳しさには驚いた様子。

「本当に強く、パンパンに張らないといけないんですね。インドネシアは、一人一人バラバラではなく、いつもまとまっている感じで、マネジャーがすべて面倒をみているようです。」

インドネシアでは、

「女子のイメルダが唯一人英語を話せました。ほかの人は片言ぐらい。」

とか。

「インドネシアの女子は、全員学生だそうです。27歳のイメルダも、私も学生ですって苦笑していました。皆さん毎日3～5時間の練習をしているそうで、日本は寒い寒いといって、体が固くなるのを随分気にしていました。」

「それにしても、イメルダとベラワティはお洒落ですね。顔を合わせるたびに、洋服を着換えているんです。イヤリングやネックレスにも気を遣って……。」

女性がお洒落なのは、万国共通ということでしょうか、しかし着飾っているばかりではないらしく、

「ベラワティは現在、スマッシュを強くするための、ウェイトトレーニングを毎日欠かさないそうです。」

これは日本にとって、ますます手強（ごわ）い相手になるかも知れません。

「でも趣味は可愛らしく、世界各国のキーホルダーを収集することらしいわ。」

そして、オーティズ・ミチコさんは最後に、

「バドミントンが、こんなにポピュラーなスポーツだとは知りませんでした。はじめは、こんなに広い体育館がいっぱいになるとは思いもよりませんでした。」

男子選手のスピード感に魅了されたミチコさん、仕事が終わる頃には、すっかりバドミントンファンになり切っていたようです。

会員ステッカー 79年版ができました
☆ 今年はライトグリーン ☆

おなじみになりましたバドミントン・ワールド・テッカーの79年版ができあがりました。

いよいよ3年目を迎えたステッカーですが、全国のバドミントン・ファンにすっかり定着した感じです。

各地でキャリング・バッグやラケットケースに貼られたステッカーをみるたびに、編集部一同ますます張り切っています。

今年の色は明るいグリーンです。銀パクの地、白いシャトルは例年どおりです。

価格は1枚100円は前回と同じですが、5枚まとまると300円に割り引きいたしますので、クラブの皆さんでまとめてお申し込みください。

送料は何枚でも50円だけ加えてください。お申込み方法は他の出版物同様、巻末とじこみの振替用紙をご利用ください。振込み手数料はかかりません。

バドミントン界編集部

トマス・カップの年に・・・・・・・・・・・・

若手の育成を考え直そう!!

昨年度は、念願のユーバー杯奪還がかなって、日本にとって最良の年となりましたが、今年はどんな年になるでしょうか。

3年おきのビック・イベントのひとつ、トマス・カップがジャカルタで5月下旬に開催されます。

日本は、豪亜ゾーンでオーストラリア、ニュージーランドを破って、早くもこのインター・ゾーン進出を決めています。

代表選手は恐らく、銭谷（カワサキ）、土田（電電東京）、飯野（ヨネックス）あるいは辻（ヨネックス）のシングルス陣に、飯野・土田組、池田（電電東京）・栂野尾（ヨネックス）組のダブルスということになるでしょう。

組み合わせを見ますと、日本は5月24・25日に、アメリカ・ゾーン代表のカナダと対戦します。

これに勝つと、次の5月28・29日の準決勝はチャンピオン国インドネシア。

カナダに勝つことは、国のレベルから見て至難とは思われませんが、インドネシアとなると、これはまったく歯が立ちそうにもない、といって過言ではないでしょう。

1月のワールド・カップ、シングルス優勝のリム・スイ・キン、準優勝のスミラット、ダブルス優勝のチャンドラ、クリスチャン組、いずれも圧倒的な強さを見せたことは記憶に新しいことです。

このメンバーに、あのルディ・ハルトノのシングルスと、チュン・チュン、ワジュディ組のダブルスが加わるのですから、〝史上最強のチーム〟と対戦することになるのです。

デルフス、プリ、M・F・ハンセンを擁するデンマークでさえ、1ポイント奪えるかどうか疑問視されるのですから、勝敗云々は二の次ということになります。

しかし、〝史上最強のチーム〟と対戦できることは、考えようによっては、この上ない幸福でしょう。

日本は、インドネシアの胸を借り、これを踏み台にして抜本的な対策を練らなければならない絶好の時機を迎えたのです。

このままでは、日本男子はますますインドネシア、デンマークから遅れを取ってしまうことになります。

今年のトマス・カップは、そういった意味で、現状を見つめ直す最後のチャンスかも知れません。

日本は、学校体育という諸外国にはない指導体系を持っています。

けれども事実は、熱意ある指導者が丹精こめて耕やし、苦心して実らせた果実を、ただ食前に運ばれてくるのを待つことしかしていないのです。

今年から、日本リーグがスタートするということです。

これもしかし、すでに一線級となっている社会人、大学生の、わずかな技術向上の手助けにはなっても、〝抜本的な若手対策〟と呼ぶには、いささかお粗末という気がします。

インドネシア、デンマークのように、裾野の広い競技人口があれば、スーパースターの出現を待つのもいいでしょうが、そうでない限り、対策を立てるのは当然のことでしょう。

現在の日本では、素材を掘り起こし、磨きあげる体制を、一日も早く整える必要があるのです。

幸い、昨年は初めて、全日本学生の強化合宿が行なわれました。

各大学から選抜された選手は、指導者と一体となって、目を輝やかせて取り組んでいました。

この火の粉が、高校生へ、中学生へ飛び火して行かなければこれだけで終ってしまっては何の意味も持ちません。

昨年のインターハイでは、男女とも2年生のチャンピオンが誕生しました。

今年は3年生となって、どんな成長ぶりを見せてくれるか楽しみでなりません。

焦点のひとつとなるでしょう。

そして極論すれば、この高校チャンピオンたちを、どしどし海外へ派遣させても、少しもおかしいことではないのです。

ある程度、全日本レベルで実績をあげなければ、海外へ派遣することができないようなシステムを、早く脱皮しなければいけないのです。

ティーンエイジャーのうちから、積極的に海外へ武者修行にやるぐらいは、冒険のうちには入らないでしょう。

女子は王座を保っているから、危機感が実感として沸いてきませんが、こと男子となると、問題は山積しているのです。

今年を、〝男子の飛躍〟の足がかりの年として、大局的な政策のスタートを願わずにはいられません。

町にウワサ広げて実施中!

ヨネックスカーニバル

なんと三宅一生デザイン スポーツウエアをはじめ毎月3,000名さまプレゼント!

いま、ヨネックスブランドのテニス・バドミントンラケット、スポーツウエア、バッグ、シューズのうちどれをおもとめになっても、抽選で毎月3,000名の方に下記のすてきな賞品をプレゼントします。詳しくは、お近くの有名スポーツ店でどうぞ。

●実施期間 昭和54年2月1日～6月30日(毎月、月末締切)●応募方法 官製ハガキに、お買い上げ店名を記入し「プライスカード」を貼って下記へお送りください。●賞品 特製ポット・ウエア・バッグ・タオル・ネクタイのうち1点。

●送り先 〒113東京都文京区湯島3-23-13ヨネックススポーツ カーニバル係

TENNIS, BADMINTON RACKETS & WEAR.

YONEX®

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Matsuura

On Sunday, February 11, the Tenth All Japan Ladies Champions' Tournament was held at the Yoyogi Second National Gymnasium in Harajuku, a very popular area in Tokyo. The winners of all the tournaments that were held last year as well as other qualified players were eligible and to Japanese women players, it is a great honor to be able to participate in this tournament.

The first tournament was won by H. Yuki, the second by N. Takagi (now Mrs. N. Nakayama), and H. Yuki has won all succeeding tournaments thereafter, from the third to the ninth, with this year's being the tenth tournament.

Even before the tournament began, our interest was focused on whether Yuki would be able to add to her record of consecutive victories or who would be the one to block her efforts.

Among this year's participants, first-seeded was, of course, H. Yuki, second-seeded was the winner of the All Japan Tournament, A. Tokuda, third was S. Kondo, and fourth was the student champion, H. Ishida, as well as the doubles student champion team of K. Sekine and S. Otsuka. Eight players were chosen in all, including 17-year-old high school champion, S. Kitada, and Y. Yonekura, who is making a name for herself in doubles matches all over the world.

As expected, H. Yuki, A. Tokuda, S. Kondo, and Y. Yonekura won in the first round. The highlight of this round was S. Kitada's battle with H. Yuki. Although she was defeated 2 - 0, Kitada was not outshone by Yuki in any way, and even brought the second game to a setting situation.

Assuming that the other mathes would turn out as we had predicted, we were stunned by the upset that occurred in the semi-finals match between H. Yuki and Y. Yonekura. Yonekura took the first game 12-11 and the second game was definitely one-sided, with Yuki winning it, 11-1. Everyone in the gymnasium believed that nothing could stor Yuki after that and that she would have her own way, as always. On that day, however, Yonekura was in almost perfect condition and playing energetically and beautifully, she captured the final game. Without a doubt, this victory will be a tremendous step forward for Yonekura. The other semi-final match was between destined rivals, A. Tokuda and S. Kondo. Like the previous match, Tokuda controlled the final game.

At long last, the final match was a battle between A. Tokuda and Y. Yonekura. Because Tokuda has always won 2 - 0 in many of the previous matches which pitted these two against each other, it was thought that she had an advantage over Yonekura. They were, however, evenly matched in the first two games. Once again, the battle was carried over into the final game and Yonekura, who was leading 4 - 0 in the first half, was unable to score another point after that due to her own mistake. Tokuda racked up 11 consecutive points and the game was over. The goddess of victory smiled on Tokuda that day.

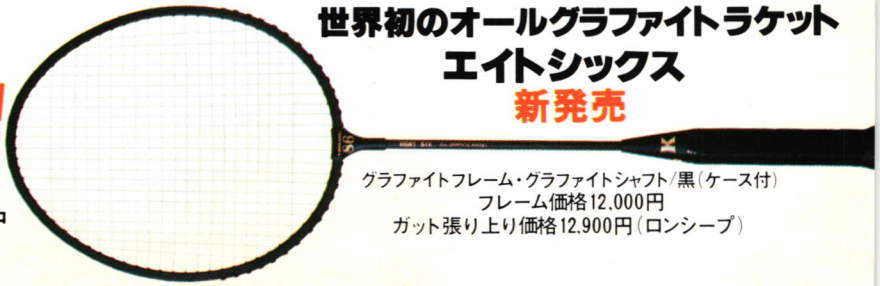
March usually brings spring to Japan. However, just as the temperature began to rise, the seasonal clock was turned back and we have been forced to pull out our winter coats again recently. Under such wintery skies, the Japanese badminton players left Japan on Saturday, March 3 (On this day, we celebrate the "Doll's Festival", a festival for girls, in Japan.), to participate in the Danish Open and the All England Championships. There is one unfortunate item of news, however. E. Ueno's injury to both of her knees made it impossible for her to participate in either tournament. She will be away from practice for a while and will be working hard at healing her injury. We wish her a speedy recovery. By the time this letter reaches you, all the Japanese players will have returned home and we hope that they will bring back with them nothing but good news as souvenirs.

G空間のハリケーン

カワサキの技術が、
宇宙素材＝グラファイトをラケットに変身させた。

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

グラファイト
GRAPHITE RACKET



世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
新発売

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円
ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)

エイトシックス
発売記念セール
ダブルプレゼント
3月1日⇨5月20日まで実施中

われらのクラブ

⑰練馬区・春日クラブ

大漁旗(?)掲げて 2世に将来を託す

わがクラブは、今から数えること7年前の春、東京・練馬にある「春日町青少年館」のバドミントン初心者講習会受講者によって結成されました。

しかしながら、当初の熱意がさめてきた頃メンバーは半減し、苦労して借りた練習場に5~6名で細ぼそと練習を続けたことも幾度かありましたが、一部の熱心な人々によって支えられたクラブは、その後人伝てに存在を知った人や、講習会受講者、区報による応募者が加わり、浮き沈みを反復しながらも徐々に発展してきました。

現在は、社会人を中心に四十数名にも及ぶメンバーをかかえており、毎週1・2回の練習を行っている、二十歳代を中心にした活気あるクラブです。

わがクラブの特徴ある行事の一つに、年2回行なわれる合宿があります。

クラブ結成3年目の秋、メンバー内より合宿の話が持ち上がり、長野県佐野坂において初めての合宿を行いました。

十分な練習方法さえ知らぬメンバーが大部分でしたが、幸いにも学生時代にバドミントンを経験した人々を中心に、朝から晩までシャトルを追いかける体験を得ました。

会社員、公務員、店員、学生と様々な人が集まり、同じ部屋で寝起きを共にし、同じ釜の飯を食べて、練習をし、飲み、語り合う楽しさも知りました。

こうしてクラブ員の心の交流が生まれ、クラブの発展に大きな足跡を残しました。

その後は、毎年2回は定期的に春は桜を求め、秋は紅葉を求めて、合宿もすでに9回を数えています。

合宿が刺激となって、技術の向上に役立ち、通常の練習にも熱が入るようになり、着実に力を伸ばしてきました。

練馬区の大会においても、団体戦、個人戦に男女共上位入賞しており、クラブ員の中からは区教育委員会認定の体育指導員が6名、スポーツリーダーが4名誕生し、それぞれクラブの内外でバドミントンの普及に活動しています。

またクラブの行事としては、対抗試合、区バドミントン協会主催大会への参加、春日杯争奪戦等のほか、バドミントンを離れてのレクリエーションも、大切な行事の一つとなっています。

練習だけでは得られない、相互の結びつきを深めるために、野外活動を中心に四季折々の自然に親しむべく、ドライブやハイキングを行ない、専任の担当者も設けています。

最近はこの効果(?)か、皆んなアルコールに強くなり過ぎて、多少困っている次第な

のですが……。

結成7年目のわれわれにとって、現状を維持することだけで精一杯なのですが、われわれなりに将来の夢を描いています。

それは、5年後10年後に二世のクラブを結成することです。

そして、その中から将来の全日本、いや世界に通じるプレーヤーを輩出したいのです。

しかし残念なことに、男女共結婚適令期を迎えている者が多いにもかかわらず、あまりにバドミントンに熱中し、いまだに相手すら捜せないのが実情なのです。

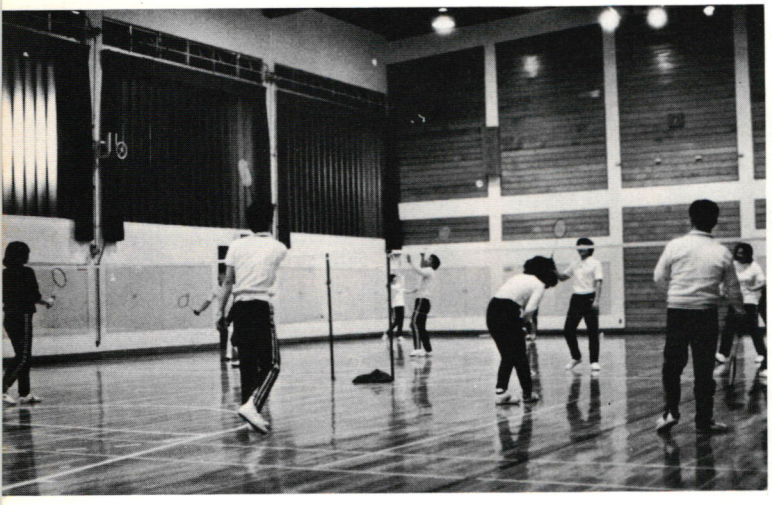
問題点はほかにもあります。

一つには新しいメンバーの育成であり、常にクラブの体質を新鮮に、活気のあるものにしていくためには、新しいメンバーにクラブ活動に参加してもらい、運営方法、練習方法の刷新をはかる必要があります。

体育館の確保という問題もあります。

現在は区営の体育施設を利用していますが時として思うようなスケジュールが組めないこともあります。

われわれクラブ員は、各自のできる範囲内でクラブの発展のため協力し合うことをモットーに、今まで幾多の困難を乗り越えてきました。



そして、これからも確実に発展成長することを信じて疑いません。

わがクラブは、初心者から上級者まで老若男女を問わず、バドミントンを通し、レクリエーションを通し、合宿を通し、全員が協力し合いながら個人の目的のかなえられんことを願っているのです。

読者の皆さん方、クラブ交流、入部に関心のある方は、ぜひ連絡してください。

〔連絡先〕　電話03―991―4763

真鍋　和彦

世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト/黒(ケース付)
フレーム価格12,000円　ガット張り上り価格12,900円(ロンシープ)

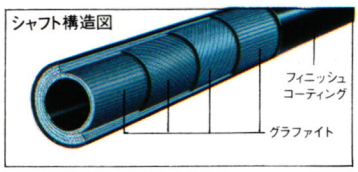
RACKET kawasaki
河崎ラケット工業株式会社

用により、ショット時のフレーム部のたわみが最適に作用し、たまもちが一段と良くなりました。これがスイートスポットの広がったと言われるところです。

打球をパワフルに——グラファイトシャフト

シャフト部は、グラファイトをタテ2層、左右ナナメに2層、計4層を組んで構成。(多重交差グラファイト)
多重に交差させることで、グラファイトの剛性を強力なバネに変えるので、エキサイトしたプレイ中に起きるラケットのねじれや、ぶれを最少限にとどめます。

エイトシックスを使うことにより、レシーブ能力、攻撃力とも更にアップし、いままでにない安定したプレイにつながります。



新鮮な打球感!

振動吸収力をアップ

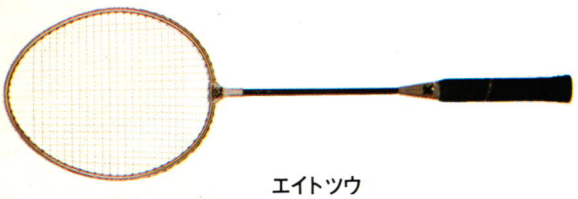
科学的な実験により、グラファイトの振動吸収性の良さは実証ずみ。エイトシックスの使用は、プレイ中の疲労度を軽減させます。

ラケットの強じん化

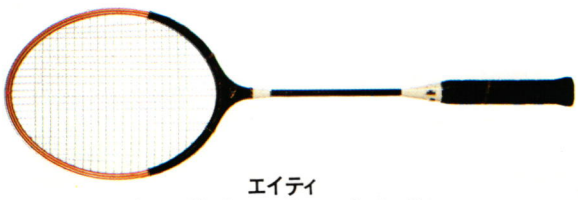
グラファイトの強じんさが、そのまま生かされているので、どんな強い振りに対しても、曲がり、ねじれの心配がありません。

新鮮な打球感

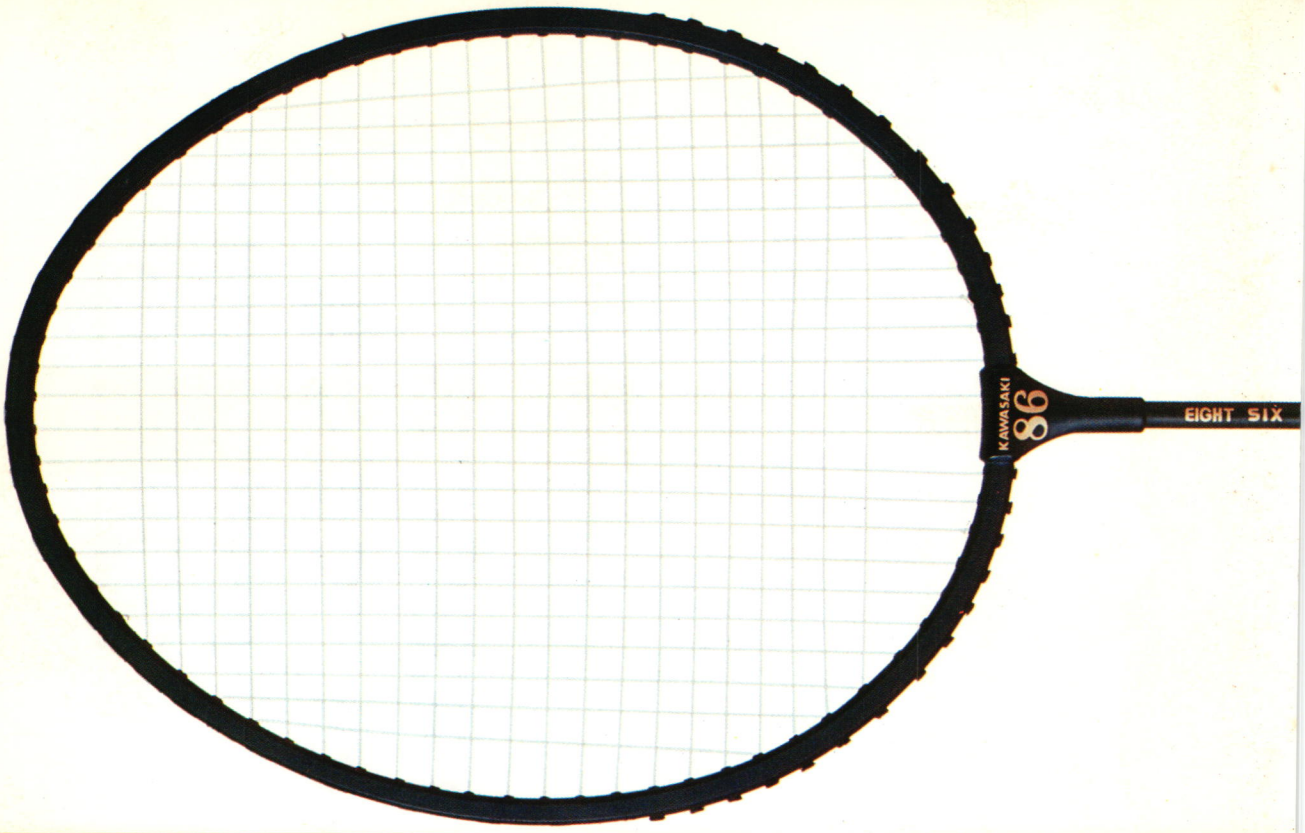
振動吸収性の良さ、しなり、たわみ具合の最適さなどが融合され、エイトシックスの打球感は全く新鮮なものになりました。新しい打球感の体験は、プレイに新しい発見をもたらします。



エイトツウ
シルバー(ケース付) グラファイトシャフト・アルミフレーム
フレーム価格8,000円 ガット張り上り価格8,900円



エイティ
黒(ケース付) グラファイトシャフト・ウッドフレーム
フレーム価格8,000円　ガット張り上り価格8,900円

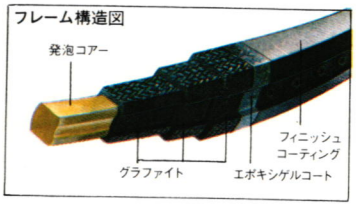


GRAPHITE

エイトシックス。このラケットの誕生は世界のバドミントン界に、ハリケーンを巻きおこし、カワサキの時代が到来したことを感じさせます。既に発売中のエイティ(B-80)・エイトツウ(B-82)は、100%グラファイトシャフト使用のラケットとして、その打球感の良さが一流プレーヤーの喝采を浴びました。
今、新登場のエイトシックスは、グラファイトを更にフレーム部にも採用。従来のグラファイトシャフトと一体となり、世界初のオールグラファイトラケットとして登場しました。他の新素材を使っただけのラケットと比較して、違いがはっきりわかるラケットの完成です。

しなやかな剛性 —— グラファイトフレーム

エイトシックスのフレーム部は、三層の編組グラファイト(数百万本のグラファイト繊維を編む)で構成され、表面はウレタンコーティングで手ざわりの良さ、仕上げの美しさなどが加わり高級感を出しています。



カワサキはなぜグラファイトを編むのか!

グラファイトの剛さと軽さは宇宙工学の分野の素材として使用されていることでも実証されています。
その剛さと軽さに、ラケットとして理想的なしなやかさをどう融合させるか——。
カワサキは独自の“編む”という技術によりグラファイトを、剛く、軽く、しかもしなやかな素材へと変革させました。
カワサキ技術陣の大きな功績です。

広くなったスイートスポット

エイトシックスは、編組グラファイトの使

kawasaki Badminton

グラファイトシリーズ

われらのクラブ

⑱安田火災海上保険・B・C

頭が痛い〝若手の流出〟

苦しい現状をチームワークで力バー

ドロップで落されたシャトルを楽に拾える人、いま一歩脚が伸びず拾えない人、ハイクリアーをバック奥深く返せる人、せいぜいコートの中央にしか返せない人等々……さまざまな人が混在するクラブ――これが私たちの愛すべき「安田火災海上保険・バドミントンクラブ」です。

今をさかのぼること約十年、当時の数名のバドミントン愛好者、学生時代の経験者によって私たちのクラブはスタートしました。

部員10名足らずとはいえ、すぐに実業団リーグに加盟し、積極的な対外試合により現在の土台が築かれたと聞いています。

○　○　○　○　○

現在では男子17名、女子22名、実業団リーグでも男子6部、女子1部（女子は昨秋の東京都リーグ戦2部で優勝、今春は1部昇格）。双方とも諸先輩の築いた基礎の上で頑張っています。また昨年は東京都民の試合にも参加し、男女共優秀な成績を残しました。

と、一見華々しい私たちのクラブですが、実は深刻な問題をかかえているのです。

理由は転勤による〝若手の流出〟です。

せっかく1年間鍛え上げて、どうにか試合に出られる技量を持ち合わせる頃に、転勤により東京を離れていくという現象が、毎春繰り返されているのです。

一方、バドミントンの経験を持つ新入社員も、その穴を埋めてくれるほど入ってはくれません。

東京にUターンしてくる転勤者もおり、貴重な戦力となってはいますが、なにせ一番の〝働き盛り〟を過ぎてしまった後ですので、試合ともなると吐息の連続なのです。もっとも、この先輩の力は素晴らしく、そこらの青二才にはまだ負けられないという気迫（殺気にも似ている）が十分ですから、試合のキャスティングボード的存在となっています。

全国各地に部員が散ってしまうということも、逆に考えれば私たちの会社全体にバドミントンを宣伝、普及することができるわけで、その兆候はまだ僅かですが大いにその可能性があるのです。

一方、女子は毎年数名の実力を兼ね備えた経験者が、確実に入ってきていますから、将来の見通しは明かるいのです。

さて、練習ですが〝華々しい〟わりには練習時間が少なく、週1回土曜日の2時間だけです。やはりそれぞれ毎日の仕事に追われ、なかなかウィークディには練習できないのが現状のためです。

もちろんなかには、優秀な、学校の先輩や後輩と機会あるごとに練習する者もいます。

しかし全体としてみれば練習時間は少なく、この壁を破らなければ先に進めないということもあるようです。

当面は練習内容の密度を濃くし、ふだんは各人で体力作りに励んでもらうといった工夫が必要なようです。

○　○　○　○　○

そうはいっても、私たちのクラブは和気あいあいと、楽しい雰囲気が充満しており、皆んなとにかくバドミントンが好きで仕様がないという人たちばかりです。

親睦を深めるために、年1回部員のほとんどが参加して一泊の旅行にも出掛けます。

また、部員は揃って（？）アルコール好きで、新人歓迎会、新年会、忘年会のほかに、たびたび「パブ」などで気勢を上げています。

練習中はさほど目立たない人も、この時ばかりは元気はつらつ〝若さ〟を存分に発揮します。

部員同士の親睦ばかりではありません。年1回社内のバドミントン大会を開催し、部員以外にもバドミントンを通して社員の親睦を深めようと努力しています。

――これが私たち〝安田火災海上保険・バドミントンクラブ」です。

今後の方針としては、とにかくリーグ戦以外の試合にも種々の対外試合を通じて、よりバドミントンが楽しくなるよう心がけるつもりです。

本誌の読者の皆さんのなかで、私たちのクラブと試合をしてみたいというクラブがございましたら、左記までご連絡ください。いつでも喜んで相手をさせていただきます。

安田火災埼玉支店・茂木秀之
0488―29―2895

BADMINTON RACKET SPORTS GOSEN

XL

100％カーボン・ロングテーパーシャフト。
コンピュータ設計による《3層構造》。
ウッドフレームとしては
世界初のXL(105g～109g)級。

Carbon Slugfest

カーボンスラッグフェスト　B-85 B-80

日本バドミントン協会推奨

B-85・B-80・モニター募集

■募集人員　10名（多数の場合は抽選）
■申込期限　5月10日（消印有効）
■申込方法
ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名(会社名)⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
■申込先
〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
モニターBR4係　☎06(942)-5816(代)
■発表　本誌6月号に掲載

●2月号RSLビクター・モニター当選者

北海道 菊地俊文　山形県 佐藤忠利　青森県 武田賢治
福島県 斎藤満雄　千葉県 木下美佐子　東京都 関文正
静岡県 田口貴久　新潟県 田辺修一郎　鳥取県 浜田頼伴
大阪府 川住康志　他10名

■プレーヤー待望のパーフェクトラケット完成

より高度に、そして多彩になっていくバドミントンのプレーテクニック。そのすべてのプレーに一本のラケットがパーフェクトに対応します。ゴーセンが開発した100％カーボン・ロングテーパーシャフト『カーボン・スラッグフェストB-85・B-80』。プレーヤーの強い要望に応えた理想のラケットの登場です。

■電子頭脳が答えた理想の構造

図1

20世紀の科学が生んだ最高のラケット素材《カーボン》。このカーボン繊維を、ラケットの生命といわれるシャフト部分に使用。この素材特性をいちばん効果的に発揮させるため、図①のように方向の異なる繊維を3層に組み合わせました。この構造図式は、理想のラケットを創り出すという前提のもとに、コンピュータがはじき出した答えです。
さらにもう一歩理想に近ずくため、この構造によるシャフトのロングテーパー化をコンピュータは指示しました。

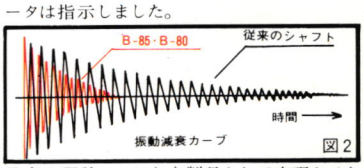


図2

最良の理論――これを製品として実現させたのはゴーセンの技術力。カーボン究極の特性を安定して確保し、世界でも類を見ない100％カーボン・ロングテーパーシャフト化に成功しました。

■カーボン・ラケットの決定版

細部にわたる測定テスト。このB-85・B-80はすべての点で他のカーボン・ラケットをしのぎました。カーボンの特性をこれほど完璧にいかしきったラケットは見当りません。

■B-85・B-80の特色
- 軽量(スピードあふれたプレー)
- 高反発／高弾性(強く、鋭い打球)
- 高強度(優れた耐久性)
- 迅速な振動減衰性（打球後のラケットの安定。図②を参照）
- 高応答性(打球の手応え)まさに長所総づかみ。カーボン・ラケットの決定版！堂々と登場です。

カーボンスラッグフェスト
B-85(黒)・B-80(白) ¥7,500
- バンブー・ウッド合板
- 100％カーボン・ロングテーパーシャフト
- カバー付

GOSEN

本　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎(0762)47-0200(代)

反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ / ハイ・シープシリーズ

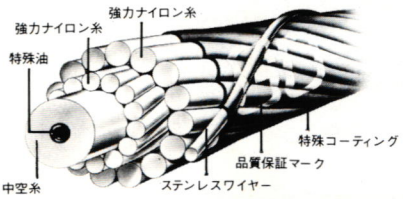
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得!

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気(乾燥、湿気など)から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800 (10m・ゲージ0.85㎜)

●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。

Wintex WIRE モニター募集

■**募集人員**　10名(多数の場合は抽選)
■**申込期限**　5月10日(消印有効)
■**申込方法**　ハガキに①製品名②住所③氏名④学校名もしくは所属クラブ名(会社名)⑤ご利用のショップ名を明記して下記へ。
■**申込先**
〒540 大阪市東区豊後町4 株式会社ゴーセン
モニターBG4係 ☎06(942)-5816(代)
■**発　表**　本誌6月号に掲載

●2月号ウインテックス・ワイヤー・モニター当選者

埼玉県	宮下良彦	長野県	鈴木教義	東京都	梶　典彦
東京都	宮田朝江	兵庫県	石塚英二	奈良県	中村　稔
三重県	森　裕幸	高知県	和田浩一	福島県	菊地和彦
新潟県	丸山晃男	他10名			

※類似品にはくれぐれもご注意ください。

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区浅前4-14-2　☎(03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎(0762)47-0200(代)

●第10回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

徳田に凱歌

第10回全日本女子バドミントン・チャンピオンズ・トーナメントは、2月11日、国立代々木第2体育館で開催されました。

華やかだったワールドカップの直後というせいか、観客の出足にはやや寂しものがありましたが、ユーバー杯保持国の裏付けをするような、白熱した試合が展開されました。

全日本総合の覇者・徳田が実力を発揮して初優勝に輝いたほか、高校生・北田の健闘、中堅・米倉の成長、ベテラン・湯木の健在と、層の厚さを誇る日本女子の面目躍如といった。好ゲームが繰り返されました。

▼1回戦

湯木（カワサキ）2（11－5、12－11）0 北田（四条畷高）

米倉（電電東京）2（11－3、11－2）0 石田（日女体大）

近藤（カワサキ）2（11－2、9－12、11－4）1 関根（日体大）

徳田（サントリー）2（11－2、11－2）0 大塚（日体大）

▼準決勝

米倉 2（12－11、0－11、11－6）1 湯木

徳田 2（7－11、11－8、11－8）1 近藤

▼決勝

徳田 2（11－6、2－11、11－4）1 米倉

（徳田は初優勝）

期待の北田、善戦

1回戦で健闘したのが、昨年2年生で高校チャンピオンになった北田スミ子選手。

第1ゲームこそ、湯木の巧みな配球に戸惑ったものの、第2ゲームになると1メートル64の長身を利して、力強い攻撃的なクリアーで湯木を苦しめた。

第2ゲーム前半を、北田が大量リード（8－1）して〝あわや〟と思わせた。

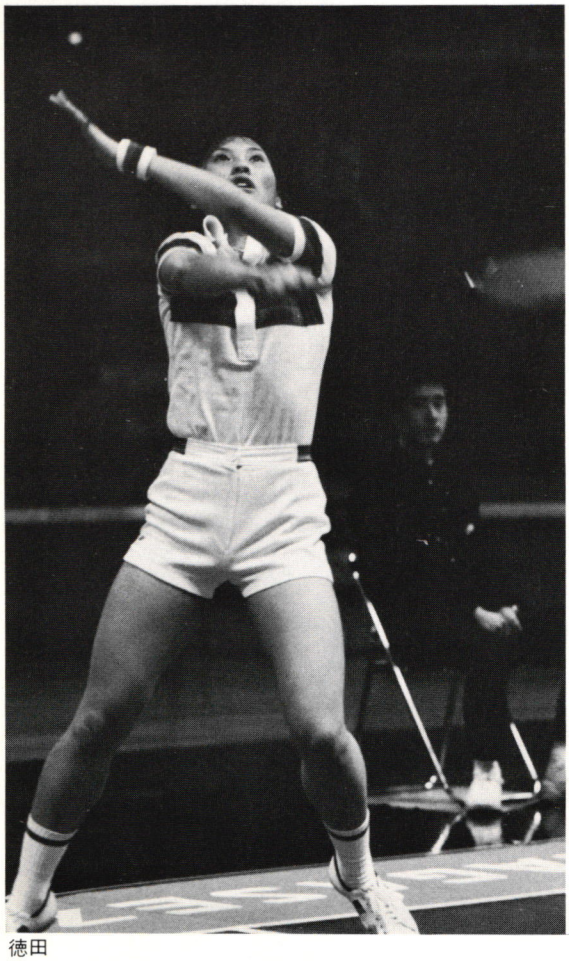
しかし、そこは今大会7年連続8度目の優勝を狙う湯木はさすがに落ち着いたもの、北田が勝ち急ぐのをリズムを変え、ショートサービスで揺さぶって逆転に成功した。

敗れたとはいえ、湯木とセッティングに持ち込んだのは立派。

不思議と、過去のこのトーナメントでは、湯木と高校チャンピオンが対戦することが多く、北田も歴代の高校チャンピオンと比較される格好になったわけだが、四条畷監督片岡氏が「将来の日本を背負って立つ、スケールの大きなシングルス・プレーヤーに育って欲しい」と期待するだけあって、ここ数年ではピカ一の存在か。

北田とは好対照に、やや期待はずれだったのは、関根、大塚、石田の大学生トリオ。

対戦相手の近藤、徳田、米倉のそれぞれのパワー、スピード、



徳田

4強（徳田・米倉 近藤・湯木）し烈、

スタミナとは、比べるまでもなく小さくまとまり過ぎの感が否めなかった。

米倉著しい進境

現在の三強といわれる湯木、徳田、近藤に、シングルスでも最近の進境が著しい米倉を加えた準決勝は、し烈を極めた。

まず、'76インカレ準優勝以来植野とのコンビでダブルスにのみ脚光を浴びてきた米倉が、持ち味のスピードと思い切りの良さを発揮、〝三強〟の一角、湯木を降して注目を集めた。

米倉は、第1ゲームから積極的な攻撃を仕掛け、守っては湯木の絶妙な配球を拾って、劣勢を挽回し、10オールのセッティングにも競り勝った。

第2ゲームは、湯木のワンサイド・ゲームに終わり、形勢が一気に逆転したかに思われたが、第3ゲームのスタートで湯木は大きなつまずきを見せ、勝敗の分かれ目となった。

ファイナル・ゲーム、湯木は幸先よく1ポイントを先取したが、米倉の積極果敢なスマッシュ、大胆なクロスカットに振られて加点することができず、再三再四サービスオーバーを繰り返すなかで、米倉は自信と元気を取り戻し、湯木は集中力を失っていった。

0—1の膠（こう）着状態を破った米倉は、加速度的に得点を加え、中盤の湯木の粘りを、〝最高のでき〟とも思うるヘアピン・ショットを再度繰り出し、大金星を挙げた。

ダブルスでのスピードが、シングルスにも生かされ、米倉にとっては、脱皮を図る意味においてこれで大きな評価を得たことは間違いない。

気力が充実、徳田

一方、徳田はライバル近藤を破って決勝進出を果たし、全日本チャンピオンの貫禄を示した。

徳田対近藤は、例によって近藤が攻め込み徳田が拾うというパターンを展開。

全日本総合、ワールド・カップと、このところの不振が目立つ近藤は、スランプ脱出を賭けたジャンプスマッシュを多用し、第1ゲームをパワーで奪い取った。

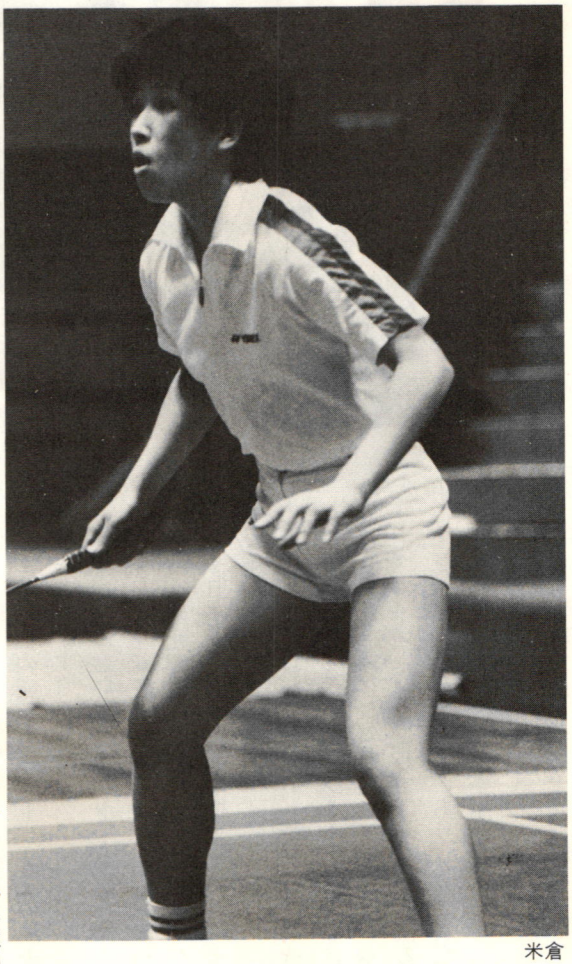
しかし、徳田もワールド・カップの屈辱（コーペンにストレート負け）を、全日本チャンピオンの名に賭けても晴らさんと気迫を込めたプレー。

第2、第3ゲームを、近藤の持病〝一発のポカ〟に助けられて連取、逆転勝ちを収めた。

決勝は、両者ともファイナルゲームの大接戦を勝ち抜いた直後、とくに徳田は準決勝から約20分後の試合となり、技術うんぬんよりスタミナ、精神力の争いとなった。

が、ここでも徳田は気力充実したところを見せた。

第2ゲームこそ、体力的な消耗が激しく、棄てるような格好となったが、勝負どころの第1、第3ゲームを意地を見せて守り抜き、初優勝を飾った。



米倉

いよいよ日本リーグが始動！

――新時代形成へプロジェクト・チームを編成

今年度から、日本バドミントン・リーグ（以下日本リーグ）が開催されることが、正式に発表されました。

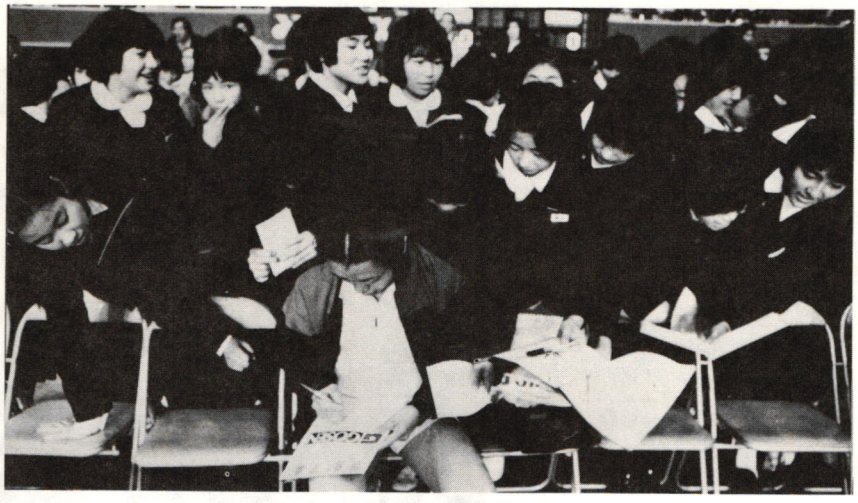
この日本リーグが、どのような趣旨、目的にのっとって行なわれるのか、日本リーグ運営委員会から配付された〝手びき〟を、読者の皆さんにご紹介いたします。

○　○　○　○　○

1　まえがき

日本リーグは、サッカーにおける西独のクラマー氏の提唱により「年1回の大会（トーナメントによる選手権大会）では実力は向上しない。お互いにより多く実力を競い合わないと強くならない」という発想から誕生したものであり、結果として「やること」「みせること」が見事に両立し、サッカー、バレーボール、アイスホッケー、ハンドボールなどにみられるよう今日の普及率、競技力の向上を果していることは周知のところです。

現在日本バドミントン界は、30有余年の歩みの成果として昨年は宿願のユーバー杯奪還及びIBF公認によるワールドカップ大会の発足また最近のバドミントン人口の急増など華々しいものがあります。しかし反面マスコミ及び一般はマイナースポーツとしての取扱いであり、なかなか厳しいものがあります。



選手強化のはずみとなるか

最近は他種目競技においても目ざましい発展ぶりをみせ、特にバレーボール、アイスホッケー、サッカーなどはすばらしい。

この時にあって、我々は我々の成果をよりすばらしく、より広く、そして愛されるスポーツとして育成して行くには必然的にこれまで以上の競抜力の向上、普及の拡大を要求されます。

昨年総会において日本バドミントンリーグの発足が承認されて以来、この実施について種々研究、検討を重ねてまいりました。

今や日本リーグは上記の要求を満たす大きな施策と信じます。

遅まきながらバドミントン愛好者の期待にこたえるべく慎重なスタートをきらなければなりません。軽々しいスタートは日本リーグのイメージをこわすばかりか立直ることさえ出来ない危険性があり、当委員会は昨年の発足を断念し、本年発足として、ここに実施方針を決定しました。

下記に示す要旨と合わせてご理解頂き、

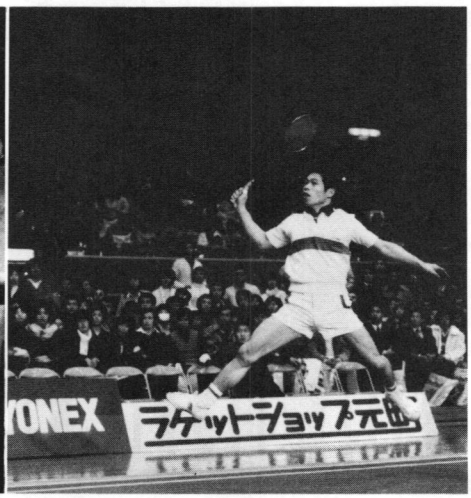
皆様のご支援、ご鞭達を心からお願い申しあげます。

2 要旨

1、日本リーグのねらい
(1)日本バドミントンの競技力の向上
(2)バドミントン普及活動の推進
(3)組織力の充実
(4)国際的実力を養う

2、期待するもの、期待されるもの
（1―1）2年後にはユーバー杯大会の開催国として世界からの挑戦をうける日本女子、トマス杯獲得へ今一歩の日本男子、それぞれ一層の選手強化がのぞまれており競技力向上の場として期待される。
（1―2）観客の前でナショナル選手主体のチームが対抗するので、従来以上の相互練磨ができ競技力の向上が期待できる。
（2―1）全国的に府県協会の発展充実は目ざましく、愛好者の増加により、熱烈な支援が期待される。またこれにこたえるための社会的責任を痛感している。
（2―2）地方の愛好者に高いレベルの試合を観せ「これがバドミントンだ」を示し普及につとめる。
（2―3）大会は1～2コートで集中的に好ゲームが観戦できバドミントンの魅力をほりおこすことができる。
（2―4）TVを活用し広く一般の関心を期待する。

リーグ形式特有の盛上りを期待

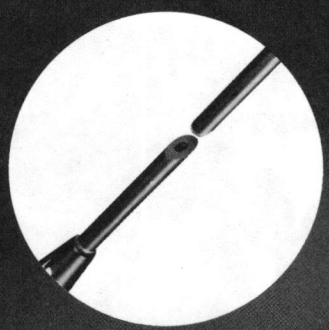


レベルの高い試合を身近で

（3―1）大会運営を通じて人間関係の充実・財源の確保をはかり組織力を強化させる。

3、組織、運営のあらまし
(1)運営は日本リーグ運営委員会がつかさどる。
(2)登録……日本リーグ独自の登録制とし、全日本実業団、学生、社会人、教員大会のトッププレーヤーを主体としたチームを公募し登録する。
(3)初回大会は53年度全国大会の結果にもとづき、実業団、学生の上位チームを推せんし、これにその他の登録チーム中より選出（2部大会の上位）したチームを加え6～8チームにてリーグを編成する。
(4)2回大会以後は1部リーグの下位と2部リーグの上位を入替え戦にて入替え、リーグを編成する。
(5)登録特例○全日本教員選抜チーム
○関東学生選抜チーム
○各府県にまたがる某社の事業所を1チームにまとめ全国的な某社組織とすることも可
これにより埋もれた社会人の優秀選手の出場の場が与えられる。
(6)開催地　公募にて決定
(7)開催日　毎年11月～1月の間　7週の休日

〈以上〉



CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

ゆっくり、じっくり、品選びができる

フロアすべてが バ・ド・ミ・ン・ト・ン

バドミントン用品なら、なんでも揃う。

ファン待望の専用フロア。

ウインザー ラケットショップ。

新宿店4階に登場！

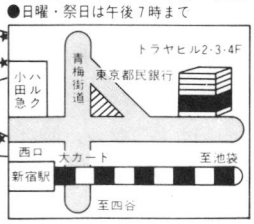
毎月曜日定休・祝祭日を除く

新宿店

東京都新宿区西新宿7−10−20(トラヤヒル2.3.4階)　TEL 03-363-6848 〒160

●営業時間／午前10時～午後7時30分

●日曜・祭日は午後7時まで



●渋谷、池袋、横浜各店のバドミントンコーナーへも、ぜひお立寄りください。

日本最大の テニス・バド専門店

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

●渋谷店☎03(464)9251 ●新宿店☎03(363)6848 ●池袋店☎03(989)0401 ●横浜店☎045(453)1785

"STARTING BADMINTON"

これから始める人へ

スターティング・バドミントン

Starting Badminton
by Judy Hashman and C.M.Jones
Japanese language serial rights arranged
with Ward Lock Ltd., London
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo.

ジュディ・ハッシュマン、C·M·ジョーンズ共著
後藤忠弘訳、栂野尾昌一・悦子協力

9 コンディショニング

人々の多くは、気晴らしや健康を求めてバドミントンを楽しみます。しかし、クラブのチャンピオンになり、県の、そして国の代表的な選手となり、さらには国際舞台でも活躍したい、など、より高いレベルを目指す人々もいます。

どっちにしても、その目的に応じたトレーニング、体づくりが必要です。そうすれば、ただコートでシャトルを追いかけている人よりは、ずっと多くの効果を得ることができます。

単に、体が丈夫になるだけでなく、入門したての、スポーツに不慣れな人でも、なにがしか体の柔軟性と運動のリズムを身につけることができます。これらがプレーに役立つのは当然です。ストロークがいかにも軽々とでき、シャトルがスウィートスポット(注1)に当たる、そのうれしさを味わおうと思ったら、決してトレーニングの効果を疑ったりしてはなりません。

本書は主として初心者から中級者向けに書かれたものでありますから、ここではチャンピオン志願者用の、かなり高度で専門的なトレーニング法は扱いません。

まず、うまくなるためには、どんな要素が不可決か考えてみます。順不同で列挙しますと、スキル（技術の塾練性）、スピード、柔軟性、力、スタミナ等です。本章の目的は、このうち柔軟性、スピード、スタミナをいかにして養ったらいいか、概説することです。はたして、どの程度までよくなるかは、取り組む人自身の意欲と、それに注ぎ込む時間とエネルギーいかんによります。

スタミナを例にとりましょうか。スタミナはすぐれた心肺機能と、筋肉の効率的な利用によって生まれます。

大量生産の普通の車のエンジンよりは、ジェットエンジンの方が、ずっと性能がよく、長時間の運転に耐え、ひずみや故障も少いですね。同様に、未調整で適応性のない筋肉に比べ、よく訓練された筋肉群の方が、より少いエネルギーで、より多くの成果を生み出します。

肺は空気中から燃料、すなわち酸素を取り込みます。酸素は心臓から押し出される血液によって、筋肉に運ばれます。酸素の吸入量がより多く、心臓の血液を押し出す力がより強ければそれだけ多量の酸素が筋肉に運ばれる道理です。

この二つ——酸素の取り入れと運搬——の仕事を同時に改善するためのやさしい手段がひとつあります。それは走ること、持久走です。走る距離と頻度は各人の目的と自発的な判断に基づいて決めればよいと思います。いずれにしても、ランニングは一般的な〝健康〟にとっての特効薬です。

バドミントンの特殊な動作、すなわち、急に止まるとか、片足を大きく踏み出すとか、をマスターするには、それなりの具体的な練習が必要です。

こうした運動は、いわゆるパワーの機能の一部です。パワーはストレングス（力、強さ）とスピードの結びついた状態を指す言葉です。各人の持つ力がどのくらいであるにしても、スピードは体重に反比例します。重い人ほど動き（スタートとかストップとか）がスローモーなのです。

ですから、もし、運動能力のすぐれた人間になろうと思ったら、ストレングスをふやす努力をする反面、減量につとめ、体重に対するパワーの割合を高めなければなりません。

ただし、これは自分勝手にやってはいけません。専門家の指

導を仰ぎ、正しい処方を書いてもらうべきです。もう一言、つけ加えましょう。ダイエット(減量のための食餌療法)をやりすぎると、肝心のストレングスそのものまで失い、食欲不振を起こします。

ひねり、回転、曲げ伸ばし等の動作は脚、尻、背、腰、胃、胸廓など、体の各部に負荷を与えます。もし、皆さんが、どうしても世界一流になりたい、というのであれば、個人、個人に合った筋力アップの運動処方を作る必要があります。

しかし、大方の読者はそれほど気ばってプレーしたいわけでないでしょうから、とりあえずはジャンプをおすすめします。ヒザを折り曲げ、太ももを胸につけ〝かかえ込み〟の形で、その場跳躍を繰り返すのです。

〝イモ拾い〟も効果があります。これは、イモに見立てた1ダースほどのゴルフかピンポン球を拾って紙屑カゴに入れる競走です。

球はカゴの周りに散らばしますが、一番遠いものでも、カゴから5ヤード(約4・5メートル)以上は離れないようにします。

プレーヤーはカゴの位置から走り出して、一度に1個ずつ〝イモ〟を拾って持ち帰りますが、カゴに入れる時、ぽいとほうってはなりません。必ず、ていねいに底に置きます。こうして、全部のイモを拾うまで続け、決して、途中で休んだり、止まったりしてはなりません。

のそのそせず、できるだけ速く走りなさい。最初、イモの所まで行ったら、ラケットを持つ方の手を床につけて、その方にターンします。1個拾い上げたら、逆の手を使って、そちらにターンし、戻ってきてカゴに入れたら、再び同じ手でターンします。この間中、ラケットを握ってプレーしているのだと想像しながら、動作を続けることが大切です。

しかし、この種のトレーニングは、筋力やパワーを改善するためのものですから、これをもってプレーそのものも、ただちにうまくなる、と勘違いしては困ります。そういう副次的な効果を少しでも生むには、これらのトレーニング中に、実際のラケットを持ったプレーの動作をできる限り強く、頭に浮かべることが不可欠です。

ランジング(低い球をとるために、片足を大きく踏み出し、体全体を伸ばす動作)の練習も重要です。これは、軽めの重量(4・5キロから9キロ)をつけてやる(注2)のがよいでしょう。

伸ばすべきところは、ぎりぎりまで伸ばし、動作そのもののスピードも最大限に早くできるよう、努力しましょう。しかしそのために体のバランスは崩さないよう、気をつけて下さい。

足首の柔軟性が踏み出した時のリーチを左右します。つまり片足を出した時、それを支える後足の足首が硬いか、柔かいかで、ラケットの届く範囲は10センチぐらい、すぐ違ってくるものだと、心得ておいて下さい。

スタートやストップの動作の敏しょう性を、できるだけ高めるには、モモの表側と裏側の筋力が、均衡していなければなりません。早いスタートを切るには裏側の、急ブレーキをかけるには表側の筋肉がモノをいいます。

近代設備の体育館には、この種の筋トレーニングに必要な器械がそろっています。もちろんダッシュの練習、ごく短い距離(20ヤード、即ち18メートルぐらい)の急坂の上り下り、なども効果があります。ただし、こういう際には、必ずタイムをとり、毎回、その時間を短縮していく努力が必要です。

ランジングといっても、前方にばかりでなく、横に踏み出す練習もお忘れなく。それから、背中(背筋力)を強く、しかも柔軟にすることが大切です。

バドミントンは、主としてオーバーヘッドで戦われるゲームですから、背中の果す役割は非常に重要です。ここで、背筋力を強化する、簡単なトレーニングを紹介しておきましょう。

両足を伸ばして、床にあおむけに寝ます。次に両ヒザを曲げて足を引き寄せ、カカトが太モモの付け根につくぐらいにします。そして、両肩の力を利用して体を床面から離し、ヒザから肩までをブリッジのように保ちます。10秒たったら、1秒だけ体をおろします。これを10回繰り返すのです。

ケガや不測の事故を避けるため、ウォームアップには十分に時間をかけて下さい。軽い、リズミカルな体の曲げ伸ばし運動をやってから、もっときつい練習に移るようにしましょう。

トレーニングでは、調子をピークに持っていくのに、じっくり時間をかければ、それだけ長く最高の状態を続けられる、というのが定説です。

大会の三日前になって、泥縄式にトレーニングする、などというのでは、まさに百害あって一利なし、です。たとえ、クラブの選手権大会であっても、優勝しようと思ったら、二ヵ月はかけるべきです。その間、目的意識をはっきり持ち、頭を使い変化に富んだ練習を積み上げましょう。

神が見放し給うたものを、コーチや練習相手が救うことはできません。しかし、捨てる神あれば拾う神あり、人は自分で思っているほどダメな存在ではありません。拾う神は自分自身つまり、やる気です。

自分には何も欠ける所がないやればやれるんだ、といいきかせて、時間と力の許す限り、どんな点ものがさず、トレーニングに励みましょう。その間、コーチ、監督の指導、助言を仰ぐことは、もちろんです。

やるのは、あなた自身です。実行あるのみ。それ以外に特効薬も万能薬もありません。

食事にも十分、気をつけましょう。時には補食も必要です。栄養はコンディショニング、つまり最高調を維持するためには無視できない要素です。

ダイエットについて、見開きしたことを、みな、うかつに信じ込んではいけません。『スタミナには、ステーキ』という古典的な栄養論を思い出しましょう。完全に消化された動物性蛋白は、六時間も保つといわれます。ということは、練習を始める時、まだ胃袋にあったとしたら、終わっても、まだ残っていることになります。

一日のトレーニングが終わったら、必要量の蛋白質と脂肪類は摂取するようにしましょう。一方、有力なエネルギー源である含水炭素（でんぷん質）をとるのは、試合日などに限るようにします。

含水炭素を含むエネルギー補給源の食べ物はいろいろ、あります。たとえば、ブドー糖シロップ、ミネラル塩などです。これらは、汗などで流れ出てしまった栄養分を補うのによく、また、少量の流動食なので胃にももたれません。

予想外のペースの変化、不意打ち、信じられないような美技などから、多くのマッチポイントが生まれます。この種の得点は、相手もまた疲れ知らずの、試合の前半では、なかなか出ないものです。特別に用意した補給品でスタミナと集中力を保てばこそ、最後に1ポイントが生きてくるのです。

最後に睡眠です。バドミントンで成功するには、どんなレベルであれ、精神的な緊張を避けて通れません。それを克服するには、心を静めるのが一番です。就寝、起床に最適の時間を、自分の生活リズムの中からつかみましょう。

人によって事情は違うにしても、バドミントンは非常にエネルギーを必要とする意技ですから、大まかにいって、二十代前半までの若い人々は、十二時前には就寝し、9時間から10時間は眠るようにしたいものです。

風呂でよく暖まり、熱いチョコレートかミルクでものんで、床に入りなさい。雑念を追い払って、静かに目をつぶります。部屋の換気のよしあしも、眠りを誘うのに影響します。

なかなか眠れない場合でも、最悪の事態は避けなければなりません。全身の力を抜いて、何か楽しいことでも考え、静かにします。そうすれば『寝られない、寝られない』と目が冴えていらいらするよりも、不眠の悪影響を最少限度に食い止めることができます。

◇本章の注

（注1）ラケット打面の真ん中よりやや下方の部分。ここでシャトルを打つと、野球でいわゆる『真芯にバットが当たった』などという場合と同じ会心の手応えがあり、ピンとはねるような、金属性の音がするものである。

（注2）体の特定部分の筋力をつけるため、その部分に砂袋や鉛などを巻いたり、下げたりして負荷を与えることは、よく行われる。しかし、この場合はどこにその重量をつけるのか、または手などに持つのか、原文に説明がないので、よくわからない。

〈42ページから〉

た。しかし、このペアは、それまでいずれも長いせり合いの3ゲームの試合と、苦しい戦の後だった。老練のペリー、サットン組に、決勝で9、11の得点を挙げたのはお手柄だろう。

準決勝まで番狂わせなく進んだ混合ダブルス。ここで、怪物トレジェット、ペリー組は全力をつくしてビリー・ジリランドと快調のカレン・パティック組を降さねばならなかった。決勝ではエディ・サットン、ジェーン・ウェブスター組を破った。

（バドミントン・ギャゼット2月号）

70年の伝統を誇る 「ギャゼット」誌第2世代へ

プロフェッショナリズムに対応して

イングランド・バドミントン協会の機関誌として、70年間、世界中のプレーヤーに親しまれてきた「ギャゼット」は、今年の2月号をもってその使命を終える。

関係者の努力によって、魅力ある雑誌として何十万ものプレーヤーに親しまれてはいたが、全く支援者の好意に依存しているという意味ではやはりアマチュアの雑誌だった。オープン・バドミントン時代を目前に、協会ではいっそうのプロフェッショナリズムが必要と考えたことからの措置である。

今後は、新しい形で「バドミントン」という誌名でマーシュ出版社から発行される予定。毎月、イギリス中の雑誌スタンドを飾る新しい雑誌は、「ギャゼット」でおなじみの内容のほかに新聞界の有名ジャーナリストの記事や、賞金額も大きくなる競技のニュースを載せて、これまでは思いもよらなかったカラーの表紙となる。

「バドミントン」は、オープン・バドミントンを目指した、そして、今までどおりプレーヤーについての、プレーヤーのための、プレーヤーによる専門誌となるだろう。

（バドミントン・ギャゼット2月号）

バドミントン分科会

記者会賞

第1号は湯木選手

東京運動記者クラブのバドミントン分科会は二月十三日、東京原宿の南国酒家で年次総会を開き記者会賞の第一号に湯木博恵選手（河崎ラケット）を選んだ。

バドミントン分科会（以下、記者会）は昨年誕生した。それまでは各社のバドミントン担当記者が任意に寄り集まった団体としてしか活動できなかった。予算も親団体の東京運動記者クラブから支給されない記者会だった。しかし、昨年、親団体からプロ野球、サッカー、陸上、水泳記者会並みに〝公認〟され、本格的な活動を展開しはじめた。その活動の中から「年一度の総会でバドミントン界に何か貢献できるようなことがないか」と話題になった。各社の記者が頭をひねった末、記者会賞の設置となった。

記者会賞とは

この記者会賞に落ち着くまで「年間最優秀選手賞（MVP）」「最優秀新人賞」などの案が出された。しかし、いずれも活躍状態が甲乙つけ難い場合や新人賞を贈るのに該当する人材がいない場合、「該当者なしではかえって不細工だ」「そう賞の権威を落すわけにはいかない」などの声が出され、最優秀選手、同新人賞など全てを対象とした「記者会賞」の設立となったわけだ。

成文化された規約があるわけでない。が、この「記者会賞」の対象はつぎの通りだ。

①、個人、チームを問わない。
②、選手、指導者らに限定しない。
③、有名、無名を問わない。
④、日本人、外国人を問わない。
⑤、ただし、日本のバドミントン界に有形、無形で寄与、貢献したと認められる業績を残したこと。

となっている。一読していただければわかる通り、洋の東西や個人、団体を問わずさらに選手や指導者らに限定しないと〝間口〟の広いもの。場合によっては外国の団体や個人にも「記者会賞」を贈り、また国内でも地方で地味に活躍している人たちや団体にも賞を贈ろうというものだ。

満場一致で第一号選出

間口が広いためかえって厳しい対象の中から第一号に選出されたのは、湯木博恵選手だった。もうその業績をくどくど並べたてるほどのことはあるまい。全英選手権に九回出場し、シングルス四回、ダブルス一回と計五回の優勝歴を誇り、全日本総合選手権優勝やユーバー杯代表チームの主将としてエースとして健闘した。また並みの人間では及びもつかない自主管理でアキレス腱切断のアクシデントを乗り越え、世界制覇を目指す〝人間性〟が賞讃に価するからだ。

第一号受賞者の湯木博恵選手には総会の席上、東京中日新聞社後藤忠弘記者（記者会幹事）から目録が贈呈され、後日記念品が進呈される。

なお、今年度から全日本総合選手権大会最終日に受賞者を発表することになった。また、受賞者氏名は全日本総合選手権大会プログラムの各種目優勝者欄に「記者会賞受賞者氏名」を掲載し、末永く功績をたたえることになった。

「記者会賞」の受賞者対象が地方の人材、団体をもふくんでいるため、読者の中から「この人を」「この団体をぜひ」とのご意見を本誌あてにお寄せください。

（記者会幹事　竹市行男）

バドミントン競技における

審判用紙からの分析と考案

日本体育大学　高橋清治

はじめに

バドミントンの試合では、必ず審判用紙が使用されますが、その審判用紙は、ただ記録だけに終わってしまって、他には何の使い道もないので、常々もったいないものだと思っていました。

私が学連の役員をしていた事もあって、53年に行なわれた、オール・ジャパンとインカレの全試合における審判用紙を入手できる事になり、これを書くきっかけとなりました。

そして、この審判用紙を用いて、各試合の比較、および優勝者にポイントをおき、調査する事にしました。

方法

やはり、いざ分析しようと思っても、種目数は、オール・ジャパン5種目、インカレ4種目、総試合数は六三四試合にもなり、その上、これらは主審によって記録方法が違うので、統一化、そして明確化する為に図1の様なジャッジ・ペーパーを考案しました。

このグラフ型ジャッジ・ペーパーに全試合を写し、データーを求める事にしました。

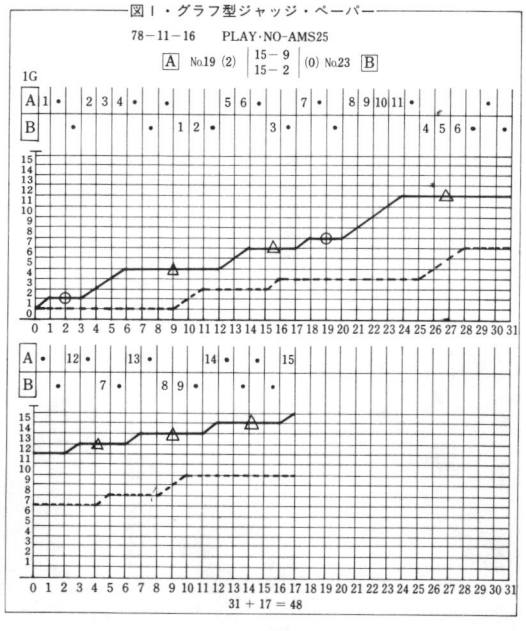


図1・グラフ型ジャッジ・ペーパー

グラフ型ジャッジ・ペーパーは、年月日、種目名、選手名などを、全てアルファベットと数字で整理しました。スコアーにいたっても、一番簡単なものを選びました。グラフは縦軸にポイントを、横軸にラリー数を示しました。やはり、グラフ型ジャッジ・ペーパーの利点は、二人の選手の相対的、または個人的な得点の動きを、動的に見られる事だろうと思います。

このグラフ型ジャッジ・ペーパーを元に次のデーターを出しました。

データー第一群として、(A)一試合平均のゲーム数、(B)一ゲーム当りのポイントの平均、(C)一ゲーム当りの平均ラリー数、を出しました。第二群として、(D)取得得点率（これは、ポイントをラリー数で割ったもの）、(E)一ゲーム当りの有意的プラトー数、(F)純プラトー率（プラトーから有意的プラトー数を引いて、ラリー数で割ったもの）、(G)ファイナル（全種目におけるファイナルの傾向）、等を出しました。さらに第三群として、各種目における優勝者について、第一、二群の(A)～(F)までを比較しました。

このデーター群の中で、プラトーとは、図1のグラフで見るところの点を取っていない時、つまり、グラフが横ばいにある状態です。そして(E)の有意的なプラトーとは、私が考えるところの、「誰でも必ず試合中にミスをしたり、相手にショットを決められる事があるが、その時、サービス権を相手に渡しても、すぐにまたサービス権を取り返して得点をすれば、相手に得点をやらずに勝てる最良の方法ではないか」というものです。シングルスでは図1のグラフに「○」で示した様に二つのプラトーとなり、ダブルスにおいては、サービスの関係上三～五のプラトーとなりました。また、(F)の純プラトーとは全プラトーから、有意的プラトーを引いたもの、つまり全くムダなラリー数といえます。図1のグラフに、「△」で示したものです。(G)のファイナルでは主に、二ゲーム目に着目して、二ゲーム目を取った方がファイナルで有利かどうかを調べてみました。以上を別紙にグラフ型ジャッジ・ペーパーから読み取り、集計しました。

データーと分析

図2・3がこれまでの結果です。表の縦にとった(A)～(G)が先ほどのべた事項で、横にとったのが各種目名です。下のグラフ

は、もっとも顕著に比較されやすい事項をグラフにしました。

図2の事項で、(A)のゲーム数と(C)のラリー数の値が大きいと、その種目の試合内容が濃いといえます。逆に、小さな値であれば内容が濃いと言えるのは、(B)のゲームポイントと(D)の取得得点率です。この2つは、大小という逆の値で、その試合内容の濃淡を示します。

この九種目でこれにあてはまる最も濃い内容のものは、AMDといえます。逆に、内容の薄かったものは、ALSとILDです。

(E)の有意的プラトーは、その回数が増えればそれだけ2組又は2人の競技者の関係に落差があるといえます。つまり、それだけ有意的にポイントをコントロールできるからです。AMDとIMDが今の意見と異なるのは、ラリー数が長いからです。他の項目の値が低く、この項目だけ高いのは、ILSとALDで、つまりこの2種目では競技者のレベルの差が大きかったからの様です。

(F)の純プラトー率は、皆同じ様な値を示していますが、ラリーの中で約70%ムダに費しているとは驚きです。

(G)のファイナルについては、グラフを見てもわかる様に、ALDを除いて全んどが50%～100%の値を示しています。つまり、バドミントンの試合では、2ゲーム目を取った者が断然有利と言えます。やはり追いついた者がそのまま調子を出すからでしょう。

次に、図3の各種目での優勝者についてみてみましょう。表を見てもらえばわかると思いますが、全体的に、合理的または有意的にゲームを運んでいるのがわかります。

(C)のラリー数が全体的に多い割には、(D)の取得得点率が高いといえます。それは、(E)の有意的プラトーが多いからでしょう。それが多ければ、自然と(F)の純プラトー率が減っていきます。

九人の優勝者において楽に勝ち進んで行ったのは、ALSの徳田選手とAMDの飯野・土田組です。逆に、苦しんで優勝したのは、IMDの菅・米山組と、MIXの中井・千葉組です。やはり、前者のALSとAMDの優勝者は実際に試合内容が良かった事は、見ていてもわかりました。

まとめ

バドミントンにおける各平均的な事項は、図2を見てわかると思いますが、実際に点を取っているラリーはごく少ないと言えます。もし合理的にトーナメントを勝ち進んで行こうと思うなら、自分のサービス権の時は必ず点を取り、たとえミスしたり、相手にショットを決められたりしても、点を与えず、すぐにサービス・オーバーをさせて自分が得点するという事が良いでしょう。これはごく当り前の事ですが、それは集中力といえると思います。又、試合は必ず2ゲーム目を取る事、できれば1・2ゲーム目を取れば一番良いのですが……。

試合におけるラリー数は、女子シングルスが約30回、他の種目は45～52回位がゲームの平均ですが、各ラリーごとの時間はだいたい長くても20秒ですから、これをトレーニングに応用してもいいでしょう。例えば20秒のスピード・トレーニングを50回インターバルをし、それを3セット続ける、という具合にすれば、バドミントン的トレーニングとなるでしょう。

図2・第1.2群についてのデーター

	AMS	IMS	ALS	ILS	AMD	IMD	ALD	ILD	MIX
(A)	2.4G	2.2G	2.2G	2.2G	2.3G	2.2G	2.3G	2.1G	2.5G
(B)	11.3P	11.4P	7.9P	7.7P	10.9P	11.3P	11.4P	10.7P	11.4P
(C)	47.1C	45.9C	30.6C	31.1C	52.9C	51.7C	48.4C	45.5C	49.4C
(D)	23.9%	24.8%	26.0%	24.8%	20.6%	21.9%	23.6%	23.6%	23.1%
(E)	3.0C	3.2C	1.9C	2.3C	4.2C	4.3C	3.4C	3.5C	3.0C
(F)	69.8%	68.3%	66.7%	67.8%	71.4%	69.8%	69.3%	68.7%	70.3%
(G)	78.6%	69.0%	66.7%	65.0%	50.0%	63.6%	28.6%	100 %	87.5%

G＝ゲーム　P＝ポイント　C＝カウント

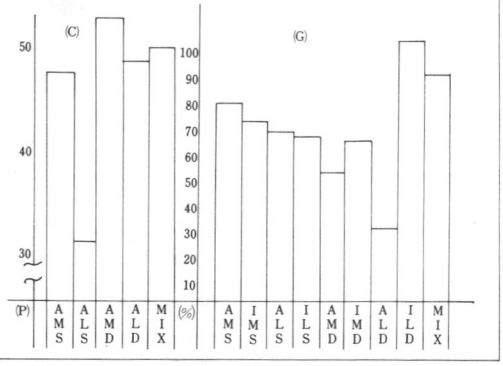
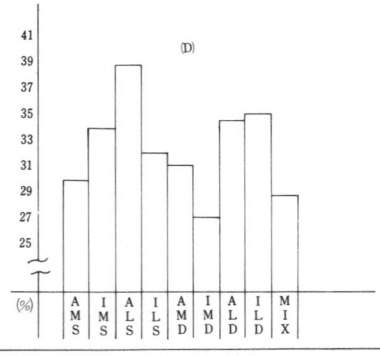


図3・第3群についてのデーター

	AMS	IMS	ALS	ILS	AMD	IMD	ALD	ILD	MIX
(A)	2.2G	2 G	2 G	2.5G	2 G	2.5G	2 G	2.3G	2.3G
(B)	14.7P	15 P	11.1P	10.3P	15.2P	14.1P	14.9P	14.6P	14.3P
(C)	49.4C	44.7C	28.8C	32.7C	34.4C	52.3C	40.4C	42.0C	50.6C
(D)	29.5%	33.6%	38.7%	31.6%	30.6%	26.9%	34.6%	34.9%	28.7%
(E)	4.5C	4.7C	3.0C	3.1C	7.4C	3.9C	3.8C	3.9C	5.1C
(F)	61.0%	61.2%	50.9%	59.1%	54.5%	65.6%	57.0%	55.8%	61 3%

A＝オール・ジャパン　I＝インカレ　M＝男子　L＝女子　S＝シングルス
D＝ダブルス　MIX＝Aの混合ダブルス



WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

トマス杯アメリカ・ゾーン決勝

パット・トライオンの活躍で カナダがアメリカを降す

アメリカ対カナダのトマス杯予選で、カナダの5—4の勝利を決定づける試合に、パット・トライオンの活躍があった。これまでにない重圧のかかった試合に全米シングルスのチャンピオン、マイク・ウォーカーを10—15、15—6、18—15で降した。

第一日目が終った時点ではカナダが3—1と優位。第二日目アメリカは3—2と追いつめた。この日、ジョン・チックは早いシャトルのコントロールがきかずゲリー・ヒギンスに、15—12、15—10と思わぬ負けを喫したのだった。

同じ国のプレーヤーとの試合に神経質になっているらしいトライオン＝アメリカ生まれだが数年カナダに居住し、カナダ選手として国際的に活躍している＝は、出足が悪く、6—0とリードされた時、会場の灯りが消え、プレーは一時中断された。

十五分後再開、トライオンはショート・サーブを有効に使って、このゲーム10点を奪った。ウォーカーにエラーが続き、第2ゲームはトライオンが15—6でとった。

ショート・サーブと慎重なプレーで、トライオンが第3ゲームを13オールとタイに持ち込んだ時で、また会場の灯りが消えて観衆をがっかりさせた。その後、ウォーカーはフリック・サーブ、トライオンはショート・サーブをそれぞれうまく使っての応酬の末、トライオンが18—15とこのゲームをとって勝った。

感想をきかれて、パットはこう言った。「負けるという気はしなかった……でも勝つとも思わなかった。ただ、打ちつづけて、バードを生きているようにしたわけですよ。これまでで一番印象的な試合でした」。

パットにとって非常に感動的、カナダにとっては非常に貴重なゲームだった。その後の3試合はやっと1試合がとれただけだったのだから。

ポール・ジョンソン、デビッド・ドベレ組はアメリカのチャンピオン、チャールズ・コークレイ、ジョン・ブリトン組を破って、カナダ唯一のダブルスの勝利をもたらした。ジョンソンはこれまでにない、いいプレーを見せ、これでカナダのすぐれた国際級プレーヤーとして認められだろう。

ジェミー・マッキーは、クリス・キナードを17—14、15—8、ゲリー・ヒギンズを15—5、15—9と破った。チックもキナードを15—12、15—3と降した。イアン・ジョンソンとパット・トライオンは、ダブルスでは、マット・フォガーティ、マイク・ウォーカー組に15—7、15—7、コークリー、ブリトン組に15—12、15—12といずれも敗退した。

（オンタリオ・バドミントン2月号より）

レイン・グランプリ第4回大会

またまた ノラに栄冠

レイン・グランプリ・サーキット第四回は、12月15、16日、ブラックネルで開催、ノラ・ペリーはまたもや三冠を獲得、スティーブンス、トレジェット組も優勝した。

レイ・スティーブンスは、男子シングルスでも優勝、最後の三試合では28点を失っただけだった。その中でも、長身のベルギー選手J・P、ボードウィンはやっと2点、4点を拾っただけに止まった。準々決勝で、アンディ・グードはデレク・タルボットに15—5、17—16で勝ち、準決勝でもよく戦ってブライアン・ウォールワークを降したが、スティーブンスとの決勝では精彩なく、15—6、15—2で敗れた。

カレン・ブリッジがいずれも接戦の末にバーバラ・サットン、ジェーン・ウェブスターに勝った女子シングルス。決勝では緊迫したファイナル・ゲームを演じたが、無敵のノラ・ペリーには屈してしまった。

マイク・トレジェットと組んだスティーブンスは、男子ダブルでまたも楽勝。このペアに対して挙げた最高の得点は、エング・タット・ウェイとベイコン組の12、9。

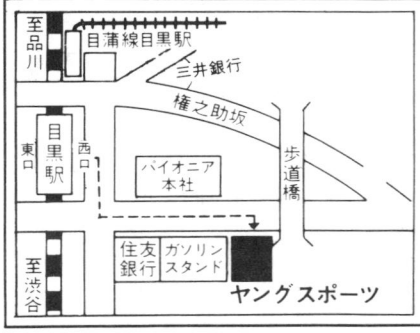
女子ダブルスでは、ブリッジ、パティックの二人のカレンがもう少しで勝利を得るところだっ

〈38ページへ〉

Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝

大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

スコアシートの活用について

共同通信　竹市行男

うれしい反響

バドミントン界二月号に「スコアシートの〝実験〟」のタイトルでその概略を記載しました。拙稿を読んだ方々から電話で「どのようなものか」「スコアの取り方は」などいろいろのお問い合せをいただきました。このほかには電話したものの小生と連絡が取れなかった方も多いことと思います。それらの方々には本誌を借りてお詫び致します。

うまく連絡がついた方の中でうれしかったのは第一に、こんなにもバドミントンを熱心に指導している方々がいるのか、ということでした。その方々はよりよい指導を後輩にしたい、と意欲を燃やしている人たちばかりで、自分たちの指導により責任を持ちたいという方々です。

そのいい例が東京都立足立高のコーチをしている馬場猛夫氏。同氏は足立高の教員でもなければ、職員でもなく、昼間は足立区役所に勤務しています。勤務後に指導をしている方です。馬場氏のようなケースの方はたくさんおられると思います。このようなケースの指導者にとって一番つらいのは、選手たちの練習をフルタイム見て指導できないことでしょう。責任を持ち、意欲を燃やして指導をなされている指導者、選手たちにとってどこかに〝すきま風〟を感じる時間差とそこから来るギャップ。この差を練習時に選手たちにスコアシートをつけさせ、その結果や成果を指導の中に取り組んでいくことにより指導者、選手間のきずなをより一層堅固なものにすることも可能なわけなのです。馬場氏が手紙の中に記された「このスコアシートは正に天の助けです」の言葉が、実際にスコアシートを使いこなしても変わらなければ、それは正にスコアシートの考案者として何物にも変えられない、うれしい反響だといえます。

馬場氏が指導する都立足立高をはじめ、二、三のバドミントン部でも筆者からサンプルを送り〝実験中〟です。この結果は馬場氏から寄せられることになっています。到達次第、本誌上を借りてご報告したいと思います。

ただ、筆者からのお願いを記します。どのスコアシートにも完全無欠のものはありません。記録をつける人がミスをしたりすれば間違った記録が残ります。そしてこの間違った記録をもとに統計をとれば、それをもとに指導すれば…。また、スコアシートをただつける、だけに止めていればいい、というのでは何の役にも立ちません。各項目ごとの統計を作り、それを細分化し考えた指導、プレーに〝表現〟してこそ価値のあるものです。「活かすも、殺すも使い方次第だ」ということを十分肝に銘じておいていただきたいものです。

スコアシートの項目は

本紙二月号はカット写真がその一部のため、よくわからないという声が聞かれました。そこで、各項目ごとに説明します。その前に基幹になっている考え方を述べます。

① バドミントンをプレーする人ならば誰でも記録できる。

② 簡単明快、活用範囲が広いこと、を条件に作りました。

その記入には、

①誰れが②フォアか、バックのサイドでか③どの高さの打点で④どんなストロークで⑤どんな結果を生んだか⑥コースはどうだったか⑦ポイントを得たか、失ったか⑧サーブ回数は何回目だったか⑨得失点経過はどうだったか――を左右対照に並べたものです。

記号は①の誰れがで複の場合を考え第一サーバーを1、第二サーバーを2②サイドはフォアがF、バックがB③打点はハイがH、中間がM、ローがL④のストロークはスマッシュSM、クリアーCR、プッシュPH、ドロップDP、ヘアピンHP、サーブV⑤どんな結果は得点プレーのエースAC、インIN、失点プレーのネットNT、フォルトFT、サイドを割った時SO、エンドを越えた時EO⑥のコースはコート図にその方向を示す⑦得失点経過は矢印線を結ぶ⑧サーブ回数はその得点を得るために要したサーブ回数を記録する。

セッティングは別として女子シングルスなら11点、男女、混合ダブルスに男子シングルスは15点を先取するまで記録する。得点プレーを○、失点プレーを×とし得点の移動のあった時のみスコアシートに記入するのです。

このような方法で記録されたスコアシートからは得失点率、得点の内訳（自からの攻撃で挙げたものか、相手のミスで得たものか）同様に失点内訳をはじめ、サーブ回数に対する得点の比率、1サーブ当たりの得点率、ラリー回数に対する得失点率などが算出される。また得失点プレーはフォアか、高い打点か、クリアーか、エースか、など前述①～⑧を合計することで容易にその内容がわかる仕組みです。

すべて〝数字〟の通りにいかないのが試合（勝負）です。数字を過信することは慎みたいものです。しかし指導の目標、作戦や技術をはじめ〝数字〟がなくては策の建てようもありません。その一助にと作られたスコアシートです。もう一度繰り返します。「活かすも、殺すも使い方次第」ということを。

なお、このスコアシートの件でお問い合せしたい方は東京都渋谷区神南一―一一、岸記念体育会館内、「バドミントン界編集部、スコアシート係」まで文書でお願いします。（スコアシートの複製、転載は筆者の了解を求めてください）

STOP PRESS!!

第69回全英選手権・速報

飯野・土田大金星逸す

近藤惜しくも2位

第69回全英バドミントン選手権大会は、3月21日から24日までウェンブレー・アリーナで開催され、女子の近藤小織がシングルスで、徳田敦子・高田幹子組がダブルスでそれぞれ決勝に進出した。

しかし、ワールドカップ'79でその実力をみせたリーン・コーペンのカベは厚く、近藤もファイナルにもちこみ健闘したが、惜しくも2位にとどまった。

また、昨年に続いて連覇を狙った徳田・高田組も、インドネシアのベラワティ・イメルダ組に敗れた。

一方男子の詳細は不明だが、飯野佳孝・土田証雄組が大健闘し、インドネシアのチュンチュン・ワジュディ組からマッチポイントをにぎったが、ついに一本をとることができず、大金星を逸したもよう。

結局女子シングルスを除いた4種目でインドネシアが優勝し、その実力をいかんなく発揮した形となった。

なお、5回目の栄冠を目ざした湯木博恵は準々決勝で敗れた。

詳細は来月号に記載。

◆各種目スコア

▽男子シングルス準決勝

リム・スイ・キン 2 (15—8, 15—7) 0 デルフス(D)

▽女子シングルス決勝

コーペン 2 (11—8, 1—11, 12—9) 0 近藤(D)

▽男子ダブルス準決勝

チュンチュン・ワジュディ(I) 2 (18—17, 14—17, 15—6) 1 飯野 土田

▽決勝

チュンチュン・ワジュディ(I) 2 (15—3, 17—16) 0 カールソン・ノルディン(S)

▽女子ダブルス決勝

ベラワティ・イメルダ(I) 2 (15—5, 12—15, 15—3) 1 徳田 高田

▽混合ダブルス準決勝

トレジェット・ペリー(E) 2 (15—4, 15—6) 0 池田 米倉

▽決勝

クリスチャン・イメルダ(I) 2 (18—17, 15—1) 0 トレジェット・ペリー(E)

※I＝インドネシア、D＝デンマーク、S＝スウェーデン、E＝イングランド

読者と編集者

高校生の進学先は?

バド界2月号「読者と編集者」の欄で「大学のプレーヤーの就職先は?」を採り上げていただき、本人も驚いているというか、バド・フレンドの中で鼻が高いというか、とにかく大いに喜んでいます。

そしてまたまた恐縮なのですが、第2弾として、できれば高校生の進学先も教えていただければ、と思っているしだいです。

それでは、バド界のいっそうの発展を祈って。

(横浜市南区・今野宗明)

▼ほかの読者の方々も、関心のある話題だと思いますので、原稿〆切り段階でわかっている進学先をご紹介します。また、2月号〆切りに間に合わなかった、大学プレーヤーの就職先もご紹介しておきます。なお、関東、関西ともに間もなく春季大学対抗リーグ戦が始まります。ぜひご観戦を!!

◆おもな高校生の進学先

●中央大学
吉村輝高(奈良一条高)
横田悟志(比叡山高)
須貝英徳(日大山形高)
細谷　昇(日大日吉高)
川島雅幸(長野東高)
島田直樹(更級農高)

●法政大学
五十嵐正弘(日大山形高)
高橋直樹(日大山形高)
羽田俊哉(金沢市立工業高)
保科正浩(比叡山高)
本石俊憲(九州学院高)

●日本体育大学(男子)
仲村雅人(勝山精華高)
山口宏治(七尾商業高)

●明治大学
加藤　博(松陽高)
目良雅彦(松陽高)

●日本大学
高崎裕二(高岡第一高)

●青山学院大学(男子)
虎枝寛哲(奈良一条高)
沢田　靖(弘前高)
豊長　(逗子開成)

●大東文化大学
鳥羽洋志(印旛高)
小林克弘(新島学園高)

●日本女子体育大学
高峯彰子(熊本中央女子高)
小野順子(藤花学園高)

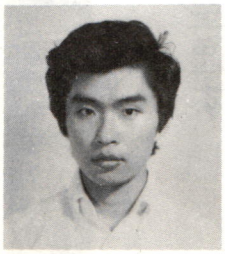
●大妻女子大学
小倉由利子（日大鶴ヶ丘高）
高山秀子（横浜立野高）
田丸保栄（木更津東高）
●東京女子体育大学
井上ゆかり（滋賀女子高）
笠松美智代（勝山精華高）
荒木二美（新庄南高）
●青山学院大学（女子）
松田伊津子（高松第一高）
◆おもな大学プレーヤーの就職先
青木智子（日本女子体育大学・全日本学生バドミントン連盟会計）群馬県教育委員会
長谷川綾子（東京女子体育大学・関東学生バドミントン連盟会計）埼玉県川口市小学校教員
川村泰子（日本体育大学・関東学生バドミントン連盟副委員長）桜美林大学講師
小寺裕美（日本女子体育大学主将）岡山市役所
門脇ルリ子（青山学院大学主将）株式会社東神タンカー
山本彰（日本女子大学主将）大成建設・新潟支社
松田洋子（大妻女子大学）日立戸塚
喜多川昌子（大妻女子大学）株式会社学習研究社
菅野悦子（昭和女子大学主将）株式会社パイオニア
今村裕子（早稲田大学主将）株式会社パイオニア
平野慶一（日本体育大学主将）勝山市役所
島崎佐恵子（東京女子体育大学主務）神奈川県相模原市教員
佐々木靖雄（日本大学）関東自動車工業
橋本敏邦（慶応義塾大学）国際電信電話会社
小山良之（関東学院大学主将）ラケットショップ元町
曽我之雄（立教大学主務）第一生命
笹川美智恵（東京学芸大学）埼玉県入間市教員

大学生の奮起を望む!!

最近は大学生の低迷ぶりが目立つようですが、本来ならば社会人に比べて練習量も多いはずです。日本を背負って立つ選手の出現を望みます。そこで、というわけではありませんが、学生組織の内容や、運営している人たちを紹介していただけませんか。ふだんはあまり表に出ることはないと思いますので、よろしくお願いします。

（大宮市・平山勝美）

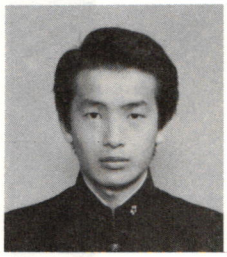
▼男子にとくに低迷がみられるようです。今年は本誌でも積極的に学生界の話題を取り上げて〝ヤングマン〟の活躍を期待したいと思います。とりあえず学生連盟諸君のきめてユニークな自己紹介をどうぞ!!


野口　浩造

野口浩造（関東学生連盟委員長・明治大学4年）

私、第三十二代の関東学連の委員長を務めます姓は「のぐち」名は「かふざふ」。加盟大学一七〇余校、個人登録三〇〇〇名という超過密学連の家主となり、部制改正後その地固めのため細心かつ大胆なる第一歩を踏み出そうとしています。日本の否、世界のバドミントン界を支えるのはわが関東学連だという「心中天下の学連」の心意気で、学生バドミントン界の斜陽化を徳俵一杯で踏みこたえ、得意のうっちゃりを喰らわせるべくさっそうと登場したつもりです。趣味は学連、特技は学連、長所短所共に学連です。

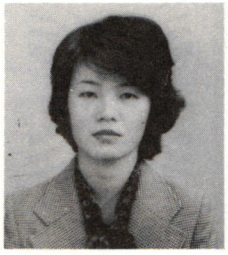
「学連に光を。もっと光を」をモットーに邁進致す所存です。叱咤は全日本学連へ、激励は関東学連へ。


松村　伸二

松村伸二（関東学生連盟副委員長・日本体育大学4年）

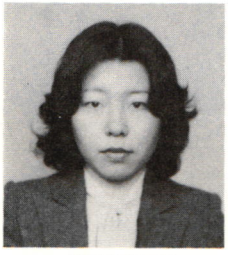
私は、このほど関東学連の副委員長という大役に抜擢され光栄かつ不安な複雑な気持ちです。でも、この役になったからには、競技選手の大半を占める関東学連を今以上に発展させようと思っています。バドミントンも最近は普及されてきました。私は、バドミントンを通じていろいろ学び経験してきました。みなさんも同じだと思います。好きなバドミントンを学連一同で支え育てていきたいと思っている次第です。これからもバドミントン愛好者の方々のお役に立てるように頑張っていきたいと思います。

最後に関東学連一同をこれからもよろしくお願い致します。


今井かつ代

今井かつ代（関東学生連盟副委員長・大妻女子大学4年）

新入部員も加わって、各大学とも新鮮な気持ちで練習に励まれていることと思います。春季リーグ戦を皮切りに、今年度も各大会が開催されます。副委員長として、微力ではありますが大会がスムーズに運営され、選手の皆さんが、大いに活躍できるよう努力してゆきたいと思っています。そして、学生バドミントン界がより向上するよう、皆さんと共に、学連全員、頑張るつもりです。選手の皆さんの活躍と協力をお願いいたします。


宇佐美真里

松尾美登里

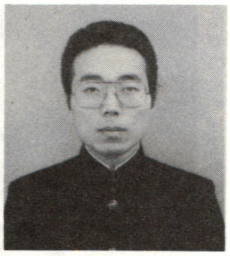
宇佐美真里（関東学生連盟会計・東京女子体育大学4年）

春の訪れとともに、学連の一番忙しい季節がやって来ました。

毎年4月の声を聞くといよいよ学連としての忙しい一年が始まるのだなあと感じます。今年一年会計を務めさせて頂くわけですがなにぶんにもこの物価高の折、学連の経済状態も苦しく大変ではありますが、そのような苦境にも負けず頑張りたいと思っております。また委員長を初め顔を見て頂ければ、おわかりになると思いますが、皆親しみやすい者ばかりですので、学連主催の試合の際には、本部席に気軽に遊びに来てください。それでは今年一年、全日本学連、関東学連の活躍に御期待下さい。

松尾美登里（関東学生連盟会計監査・日本体育大学3年）

バドミントンを始めてやっと三年目に入りました。私と関東学生バドミントン連盟との出会いは、日体大に入学しバドミントン部に入部した事から始まりました。

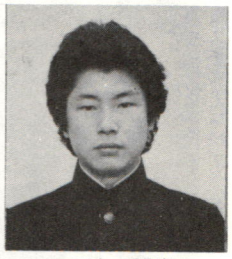

渡辺　雅人

各大学の先輩方のもとで二年間、学連の仕事を行なってきましたがやっとわかりかけてきたところです。会計監査としてはこの春からスタートを切りますが、まだ至らない点ばかりです。プレーでは先輩方の足元にも及びませんが、学連の仕事では「任せてください」と言えるように、ファミリームードの関東学連で頑張りたいと思います。

よろしくお願い致します。

渡辺雅人（全日本学生連盟委員長・慶応義塾大学4年）

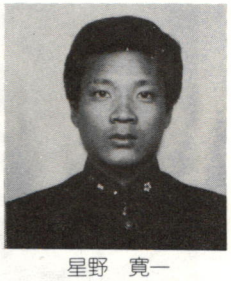
本部席を見ろ！シャトルだ、ラケットだ、アッ!!ガ・ジ・ンガーZ。―そうです、ガジンガーZです。遠い星から学連にやって来た奇蹟の男、人間の能力を遙かに超えたガジンガーZ。タイムテーブルを変え、マイクをひねるくらいはアサメシマエ。彼は渡辺雅人と名のって正体を隠し、奥様、お嬢様方のあこがれの的、全日本学連の委員長となって日夜働きつづけているのです。


川上　隆庸

尚、学連に関する苦情は関東学連へ、ファンレターは私めが一括して受け付けます。ヨロシク。

川上隆庸（全日本学生連盟副委員長・法政大学4年）

今や全日本学生連盟加盟校も五百校を越え、個人登録数も六千余名を数えるようになり学生バドミントンもマイナーからメジャーへと移り動いているこの時期に、全日本学生連盟副委員長という大役を仰せつかり、責任と意気込みを感ずる所存であります。学生バドミントンからは、現在活躍されている国際大会出場選手が数多く巣立っており、これからの日本のバドミントン界を背負って立つのは、われわれ学生であるという心意気で選手諸君の発奮を期待するものであります。


星野　寛一

星野寛一（全日本学生連盟副委員長・日本体育大学3年）

都道府県各協会の発展充実が目ざましく、また愛好者の増加により熱烈な支援が期待されており学生界も一層の責任を感じている現在、副委員長という重要なポストに推挙され光栄に思います。ナショナルチームメンバーに学生界から多数でることを期待し、学生界発展のために精一杯努力していきたいと思っています。

尚、学生バドミントン界への問い合わせ、および渡辺、野口、川上、松村、星野、おのおの男性陣へのファンレターの宛先は、〒150　渋谷区神南1～11　岸記念体育会館内　全日本・関東学生バドミントン連盟。

素晴しかったW杯

ワールドカップ'79を1月20、21日に観戦しました。私はリム・スイ・キンとフレミング・デルフスとルディ・ハルトノの大ファンです。

昨年の5月号にハルトノのパネルを募集していましたが、今回もワールドカップを記念して出したらいかがでしょうか。

ぜひとも実現してほしいと思います。

バドミントンを始めて約一年（以前は卓球）になりますが、この大会を見て、ますますバドミントンが好きになりました。

リム・スイ・キンにはサインをもらい握手もでき、デルフスにはサインをもらい、写真をとるときポーズもとってくれたんですが、それがピンボケでがっかりしています。

機会があったら全英選手権のツアーにも参加したいなあ（夢）、ルディ・ハルトノにも逢いたいなぁ（夢）……

乱文・乱筆でごめんなさい。

（八戸市市川町・吉田留美子）

▼今月号に〝舞台裏〟をご紹介しましたが、吉田さんのようなお手紙をいただくと、疲れもフッ飛んでしまいます。

FROM EUROPE

ヨーロッパ情報

12針ぬうケガにも負けず優勝

在ロンドン
山本洋彦

15年ぶりとも、30年ぶりともいわれるイギリスの降雪は、多くのスポーツに多大な影響を与えている。

FAカップの行なわれているフットボール（サッカー）も、その一〇七年の歴史の中で、初めて、すべての試合が雪でキャンセルされる事態になったとか。アスコット競馬場などで知られる競馬も同様にキャンセルが続出する等、屋外スポーツは大混乱で、その日程消化にてんやわんや。

しかしこの雪が、まさか屋内スポーツのバドミントンにまで波及するとは、誰しも予想していなかったであろう。

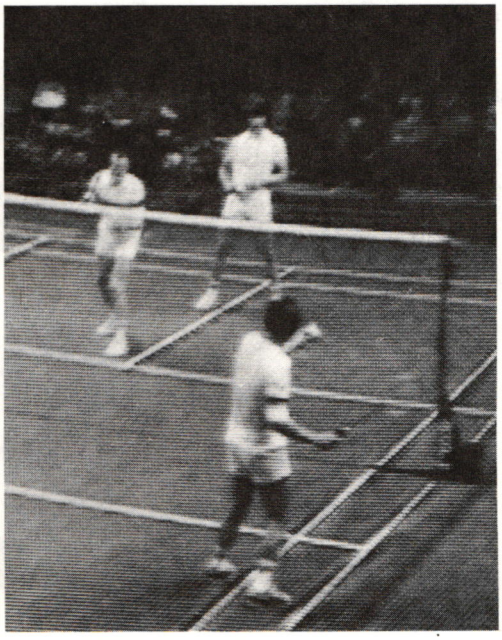
サーキットの最終日をむかえたこの試合は、2月14日夜、ロンドン近郊のウォーキン・スポーツセンターで行なわれたが、この日は、またもや前夜半からの雪で、あちこちの交通が寸断され、その開催が危ぶまれた。

しかしテレビ中継（録画どり）もされることになっているこの試合、すべてがアレンジずみ、開催の決定は午前中に出された。

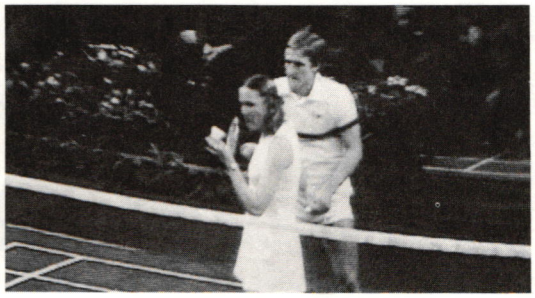
ここで起ったのが二つのハプニング。

一つは、今まで最多得点で男子単をリードしていたデリク・タルボットが、雪のため閉鎖されたニューキャッスル空港から飛び立てず、やむなく棄権。もう一つは、雪道を会場に向っていたレイ・スティーブンスのマイカーが、鏡のようにツルツルになってしまった道路のためスリップし、事故をおこし、病院にかつぎこまれて、頭に12針もぬう等のケガをしてしまったこと。

しかし、レイ・スティーブンスは、このケガにめげず、病院をとび出し、会場にかけつけ、ビッコをひきながらも、マイク・トレジェットと組んだダブルスで、エディー・サットン、デビッド・エディ組を16—18、15—12、17—14の大接戦の末くだし、テレビ、ラジオ、新聞で、またもやそのフェアーな試合ぶりを報道され、昨年受賞したフェアープレー賞を実証する形となった。



ケガのためか変則的なサービスをするスティーブンス（BBC・TVから）



トレジェット・ペリー組

編集室から

◆54年度の始まりです。本誌も増ページを実施し、内容の拡充につとめます。読者の皆様の投稿・ご意見をお待ちしております。

◆表紙のデザインもマイナーチェンジしました。白を生かし、明るい感じを強調、飛躍の年とするつもりです。

◆本文中にも新しいカットを挿入し、誌面も徐々に新鮮な感じを出したいと思います。デザインの面でもご意見などをお寄せください。

◆来月号は全英選手権大会のもようを中心にお届けします。多くの写真と楽しいエピソードをお楽しみに。

◆70年の伝統を誇る「バドミントン・ギャゼット」誌も「バドミントン」という名で新たな出発をしました。本誌も本場イギリスにひけをとらぬよう努力します。

◆なお、先月にひきつづき投稿いただいた皆様には、順次記念品をお送りいたしますので、ご愛用ください。

世界のカールトン

carlton

カールトンは水鳥？

● PHOTO・左より…
トーナメント・プラス，トーナメント，インターナショナル，クラブ

水鳥球

トーナメント・プラス

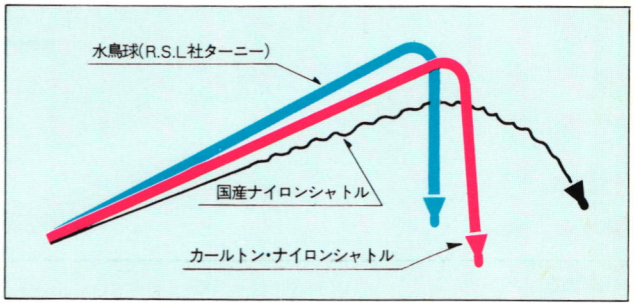
トーナメント・プラス
1ダース￥3,600(1個￥300)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
常に世界をリードしてきたカールトンのニューモデルです。正確なフライト，すばやいターン・オーバー，そしてフェザーのフィーリング。トーナメント・プラスは確かにプラスαを感じさせるシャトルコックです。

トーナメント
1ダース￥3,300(1個￥280)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
世界一の消費量を誇るナイロン・シャトルのベストセラー。水鳥球の数倍の耐久性をもち，しかも，最も飛び方が似ていると評価されています。この絶大な定評は他の追従を許しません。

インターナショナル
1ダース￥2,800(1個￥240)
日本バドミントン協会検定合格球
IBF(国際バドミントン連盟)公認球
国産品とは比較にならないほど優れた性能をもち，しかも値段は国産品と変りません。耐久性はトーナメントよりも丈夫です。初・中級者のための試合・練習球としてどうぞ。

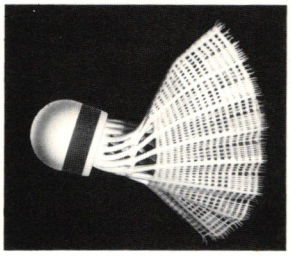
クラブ（練習球）1ダース￥2,400(1個￥200)

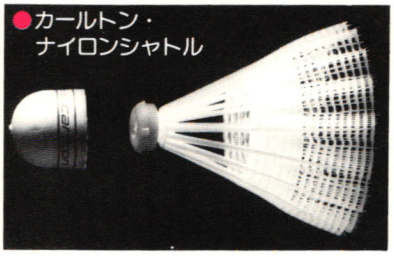
昭和54年度より，ナイロンシャトルは中学校大会使用球になりました。



1 Flight（ハイクリアー時に於る飛行曲線）

カールトンの目標は，水鳥球の原点といわれる英国R.S.L社のターニー・モデルです。垂直に落下してこそシャトルコック。これこそ，カールトンが追求し続けている基本テーマです。右の図を見れば，なぜカールトンが世界中のプレーヤーに使用され，他の追従を許さないか理解していただけるでしょう。



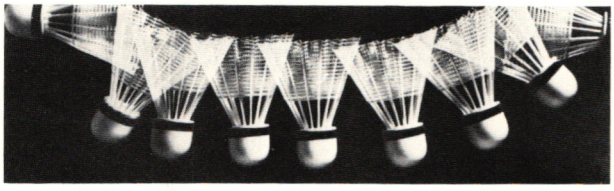


●カールトン・ナイロンシャトル

2 Durability（耐久性）

丈夫と言われるナイロンシャトルをさらに一歩進めたのがカールトンです。回転機構の採用によりネジレをなくし，ヘッドもこわれやすいコルクからP.V.Cに変える事によって耐久性を更にアップしました。
（寒冷時に使用される時は，お湯で暖めてからご使用下さい。耐久性がグーンとアップします。）

●国産ナイロンシャトル



●カールトン・ナイロンシャトル

3 Turnover
（ネットプレー時の復元性）

ターンオーバー。この返りの速さこそカールトンの真髄です。ごらんの通り，国産シャトルと比べ違いがひと目でわかります。正確なショットを生む素早いターンオーバーこそ，微妙なタッチが要求される大事な要素です。

総輸入元　メトロレジャー株式会社　東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661㈹

いま、世界は95gに興奮する。

また、ヨネックスならではのクリエイティブなラケットが誕生しました。
世界で最軽量。なんと、100g以下のフルカーボンシャフトラケット。
カーボネックス8です。フレームは特殊合金アルミ、シャフトはフル
カーボン。強烈なパワーを秘めながらこの軽さは、まさに世界新。
バドミントンプレイが二歩も三歩も前進します。このヒーローの登場で。

新発売 ラケット重量極限の壁を遂に破った
FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト（特殊アルミ合金フレーム・フルカーボンシャフト）…¥8,800
（イエロー・オレンジ・グリーン）・重量表示・1-U（100g～95g）・2-U（95g～90g）

YONEX®